

資料

(令和五年一月)

第六十七回「合宿教室」(主会場・地方会場)感想文集

——日本人としての自覚をもとめて——

公益社団法人

国民文化研究会

第六十七回 「合宿教室」(主会場・地方会場)参加者の感想文と短歌詠草



主会場

と き 令和四年九月三日(土)から四日(日)まで一泊二日間

ところ 東京都八王子市「大学セミナーハウス」

参加総数 六十四名

地方会場

と き 令和四年九月十日(土)から十一月三日(木)の一日(日帰り)

参加総数 四十七名

目次

「はしがき」に代へて……………	理事長 小柳志乃夫…	3
主会場大学別その他参加者数と地方会場参加者数……………	……………	6
「合宿教室」67年の歩み……………	……………	7
主会場「合宿教室」……………	……………	9
日程表(一泊二日)……………	……………	10
あらまし……………	……………	11
走り書き「感想文」……………	……………	23
合宿中に創作された「短歌詠草」……………	……………	51
地方会場走り書き「感想文」……………	……………	61
あとがき……………	……………	78

“はしがき”に代へて

公益社団法人 国民文化研究会 理事長

小柳 志乃夫

本会創立の昭和三十一年に第一回が開かれた「全国学生青年合宿教室」は今年で六十七回目を迎へました。一昨年、昨年と、コロナ禍の中で宿泊研修を断念せざるをえず、日帰り研修の形で開催しましたが、今年は三年ぶりに宿泊研修を行ふことができました。当初予定の二泊三日の日程が、コロナ第七波の拡大によって一泊二日に変更せざるを得なくなりましたが、わづか一泊でも参加者相互の距離感にはかなりの差があり、相互のつきあひと共に学びが深まったのはありがたいことでした。

(なほ、日程短縮のため本合宿の特色である短歌研修を本日程より外すことになりましたが、学生諸君には是非短歌研修を体験してもらひたく、急遽前泊のコースを設けるといふ変則日程となりました。また、コロナ禍を考慮して昨年同様に地方会場を六ヶ所設置し、各地で主会場のメインの講義の録画視聴を柱にした研修の場をもちました。)

さて、本年は、数年来のコロナ禍による経済・社会活動の制約が継続する一方で、国内外で大きな事件に見舞われました。一つは二月のロシアによるウクライナ侵攻です。国連安保理常任理事国である軍事大国ロシアがあからさまな侵略行為をとったことは大きな衝撃でした。これに対してウクライナ国民は祖国防護のために勇敢に立ち上がり、国際社会もその支援に回りました。中国・ロシア

ア・北朝鮮という覇権・独裁国家を隣国に持つわが国にとって、この侵攻は他人事ではなく、国家の独立を維持するために何が必要か、長年の平和ボケに覚醒を迫られる事件でした。即ち、国連中心の平和主義といふ考へが空疎なものであって、国民の暮らしと生命を守るためには国家の自立が絶対的な条件であり、国家の存立は国民の独立の意志が基盤であることを示した事件でした。

国内でも、七月の安倍元首相暗殺といふ衝撃的な事件が起きました。首相就任の時から覇権国家中国の脅威を正確に見通して、日米同盟を強化し、さらに自由で開かれたアジア太平洋構想を米国をはじめとする主要諸国の共通理念に広げ、国際世論をリードしたのが安倍元首相でした。そしてその安倍元首相が国民に発した標語は「日本を取り戻す」といふものであり、目下の国家的課題を解決していく上でかけがへのない存在でありました。

今回の合宿教室は、かうした内外の問題が起さる中で開くことになりました。メイン講師には日本政策研究センター代表の伊藤哲夫先生をお招きしました。先生は、激動する国際情勢の中にある我が国において、政治・経済・社会に通底する重大な問題として、国家を否定、乃至無視して個人の幸福を求める日本国憲法に象徴される戦後思想の問題を剔抉されました。そもそも日本国憲法本文には国家についての言及が一言もないといふご指摘は見過ごされてゐた点であつて、自衛隊を明記する憲法改正によつて憲法上初めて国家存立の意味が明らかにされる意義を教示されました。また、ご講義の中では、先生のお若い時に、本会初代理事長の小田村寅二郎先生から、知識や理論を基にした「頭言葉」では人生の真実に到らないと指摘され心から発する「心言葉」の大切さを学んだご経験を語られました。そして、安倍元首相の発した「日本を取り戻す」といふ標語は安倍元首相の「日本」に対する万感の思ひがこもつた「心言葉」であつたことを示されたのでした。

もう一つのメイン講義であった、小柳左門氏の講義は、聖徳太子の時代から今に至るまで皇室に脈々と受け継がれてきた慈悲の心を、懇切に説かれたものでありました。その中で近現代の皇后方のお歌を紹介して、ハンセン病患者や戦傷者・戦災孤児など過酷な境遇にある人々に寄せられるお慈悲しみ、そして、国家の重責を一身に負はれる天皇に寄せられる深いお心を偲んだのでした。講義資料で紹介された「天皇さまが泣いてござった」といふ、昭和天皇の戦後御巡幸時の戦災孤児とのエピソードは、その慈悲のまごころをまざまざと拝するもので、この皇室の伝統を今もいただく国民の幸をつくづくと感じました。

両講師のご講義は、言はば「日本を取り戻す」といふ点で一つにつながるものであり、それは、その後の歴史・古典講義で、幕末維新の英傑である吉田松陰や西郷隆盛の生き方をその言葉に学ぶ中でさらに深められたと思はれます。さらに、会員・学生の発表も、読書会に古典を読む喜び、或いは音楽作品に込められてある作者の心など、印象深いものでありました。

合宿後の内外情勢はさらに不安定な要素を増大させてをりますが、この危ふい状況に日本が対処する根本の力は、この合宿に学んだやうに我々の内心に「日本を取り戻す」——日本の本来のありやうを生き生きと蘇らせるところに求められるものと思ひます。

この感想文集は合宿の帰り際に「走り書き」で書かれたもので、十分に意を尽くしたものではありませんが、各参加者の率直な思ひを書き留めて頂いたものです。各地方会場の感想文も合せて掲載してをります。ご精読いただければ幸ひに存じます。

最後になりましたが、この合宿教室を実施するにあたり、今年もまた、各界からお寄せいただいたご支援に対し、会員一同に代り、心より厚く御礼申し上げます。



第 67 回全国学生青年合宿教室（主会場）（令和 4 年 9 月 3 日～4 日）
東京都八王子市「大学セミナーハウス」

主会場 「合宿教室」参加者

（学生班）（算用数字は参加学生数）

東北大学 1

東京大学 2 中央大学 1

芝浦工業大学 1 聖心女子大学 1

福岡教育大学 3 中村学園大学 1

長崎大学 3

計 十三名（うち女子四名）

（社会人参加者） 十名（うち女子二名）

（国民文化研究会） 三十八名

（その他） 三名

総計 六十四名

地方会場（録画利用）参加者

関西・福岡二会場・熊本・長崎・鹿児島

総計 四十七名

— 「合宿教室」67年の歩み —

回数	年 度	開催地	参加 人員	主 要 講 師
1	昭和31年	霧 島	92	広田洋二・瀬上安正・川井修治
2	" 32年	福 岡	127	竹山道雄・高山岩男・浅野 晃
3	" 33年	佐 賀	72	勝部真長・木下 彪・森 三十郎
4	" 34年	阿 蘇	160	花田大五郎・中山 優・野口恒樹
5	" 35年	雲 仙	200	木内信胤・花田大五郎・佐藤慎一郎
6	" 36年	雲 仙	208	小林秀雄・木内信胤・津下正章
7	" 37年	阿 蘇	215	福田恆存・木内信胤・黒岩一郎
8	" 38年	雲 仙	202	竹山道雄・木内信胤・木下広居
9	" 39年	桜 島	202	小林秀雄・広田洋二・木内信胤
10	" 40年	大 分	215	岡 潔・花見達二・木内信胤
11	" 41年	雲 仙	240	福田恆存・木内信胤・戸川 尚
12	" 42年	阿 蘇	336	林 房雄・太田耕造・木内信胤
13	" 43年	霧 島	353	竹山道雄・高谷覚蔵・木内信胤
14	" 44年	阿 蘇	403	岡 潔・木内信胤・木下道雄・奥田克巳
15	" 45年	雲 仙	491	小林秀雄・木内信胤・桑原暁一
16	" 46年	霧 島	302	村松 剛・木内信胤・戸田義雄
17	" 47年	阿 蘇	402	木内信胤・山本勝市・胡 蘭成
18	" 48年	雲 仙	433	村松 剛・木内信胤・山口宗之
19	" 49年	霧 島	528	小林秀雄・木内信胤・戸田義雄
20	" 50年	阿 蘇	435	福田恆存・木内信胤・夜久正雄
21	" 51年	佐世保	372	長谷川才次・村松 剛・木内信胤
22	" 52年	雲 仙	332	木内信胤・衛藤藩吉・高木尚一
23	" 53年	阿 蘇	440	小林秀雄・木内信胤・松本唯一
24	" 54年	霧 島	268	木内信胤・高山岩男・山田輝彦
25	" 55年	雲 仙	431	福田恆存・法眼晋作・宝辺正久
26	" 56年	阿 蘇	353	齋藤 忠・村松 剛・青砥宏一
27	" 57年	霧 島	321	齋藤 忠・黛 敏郎・幡掛正浩
28	" 58年	雲 仙	327	齋藤 忠・小堀桂一郎・長内俊平
29	" 59年	阿 蘇	302	吉岡一郎・小堀桂一郎・加納祐五
30	" 60年	阿 蘇	249	市原豊太・高村坂彦・小田村四郎
31	" 61年	島 原	294	江藤 淳・村松 剛・小柳陽太郎
32	" 62年	阿 蘇	269	小堀桂一郎・鈴木 一・關 正臣
33	" 63年	島 原	227	児島 襄・小堀桂一郎・加納祐五
34	平成元年	島 原	204	村松 剛・山田輝彦・国武忠彦
35	" 2年	阿 蘇	204	黛 敏郎・小柳陽太郎・占部賢志
36	" 3年	厚 木	239	田久保忠衛・国武忠彦・山内健生
37	" 4年	阿 蘇	257	村松 剛・平川祐弘・奥富修一
38	" 5年	厚 木	271	村松 剛・佐伯彰一・白濱 裕
39	" 6年	阿 蘇	253	徳岡孝夫・小堀桂一郎・絹田洋一
40	" 7年	厚 木	240	小川三夫・長谷川三千子・東中野修道
41	" 8年	阿 蘇	171	竹本忠雄・伊藤哲夫・坂口秀俊
42	" 9年	厚 木	213	西尾幹二・竹本忠雄・酒村聰一郎
43	" 10年	阿 蘇	193	小堀桂一郎・徳岡孝夫・志賀建一郎
44	" 11年	富 士	178	井尻千男・長谷川三千子・山口秀範
45	" 12年	阿 蘇	154	小堀桂一郎・東中野修道・布瀬雅義

回数	年 度	開催地	参加 人員	主 要 講 師
46	平成13年	富 士	150	伊藤哲夫・長谷川三千子・今林賢郁
47	" 14年	江田島	244	中西輝政・小柳陽太郎・名越二荒之助
48	" 15年	富 士	171	小堀桂一郎・伊藤哲夫・占部賢志
49	" 16年	阿 蘇	170	中西輝政・小田村四郎・石村善悟
50	" 17年	伊 勢	219	長谷川三千子・松浦光修・山内健生
51	" 18年	霧 島	191	井尻千男・占部賢志・山内健生
52	" 19年	奈 良	180	小堀桂一郎・小川三夫・小野吉宣
53	" 20年	伊 勢	150	伊藤哲夫・占部賢志・岸本 弘
54	" 21年	厚 木	160	長谷川三千子・ペマギャルボ・占部賢志
55	" 22年	阿 蘇	151	中西輝政・志賀建一郎・國武忠彦
56	" 23年	江田島	141	小堀桂一郎・山内健生・廣木 寧
57	" 24年	阿 蘇	152	竹田恒泰・小柳志乃夫・今林賢郁
58	" 25年	厚 木	142	伊藤哲夫・國武忠彦・山口秀範
59	" 26年	淡 路	108	中西輝政・小柳左門・岸本 弘
60	" 27年	富 士	115	長谷川三千子・小柳志乃夫・國武忠彦
61	" 28年	福 岡	74	今林賢郁・山口秀範・廣木 寧
		富 士	69	石平・今林賢郁・伊藤哲朗
62	" 29年	福 岡	83	山内健生・小柳左門・内海勝彦
63	" 30年	福 岡	53	折田豊生・廣木 寧・與島誠央
		富 士	63	江崎道朗・國武忠彦・青山直幸
64	令和元年	葦 北	48	伊勢雅臣・小柳左門・今村武人
		柏	77	伊藤哲夫・山内健生・西山八郎
65	" 2年	長 崎	145	小柳左門・池松伸典
		熊 本		小柳左門・伊勢雅臣
		福 岡		山口秀範・中島繁樹
66	" 3年	東 京	131	江崎道朗・伊勢雅臣
		東 京		鶴野光博
67	" 4年	関西地区	64	絹田洋一・庭本秀一郎
		東 京	64	伊藤哲夫・小柳左門
		地方会場	47	録画及び地元講師に基づく研修
累計・参加人数				15,676名

主会場 「合宿教室」



第67回 全国学生青年合宿教室 日程表

令和4年9月2日（金）～9月4日（日）

	9月2日（金）	9月3日（土）	9月4日（日）
6:00			
6:30		起床（6:15）・洗面	起床（6:15）・洗面
7:00		朝の集ひ（6:45～）・散策	朝の集ひ（6:45～）・散策
7:30			
8:00		朝食・休憩	朝食・休憩
8:30			
9:00			学生・若手会員所感発表 （渡邊蒼生・武澤陽介）
9:30		（9:30 受付開始）	
10:00	薄墨部分は学生向け短歌研修日程	（10:00 開会） 開会式	輪読導入講義 「西郷南洲に学ぶ」 北濱道氏
10:30			
11:00		今、日本人に問われている 歴史的課題 ～激動する国際情勢の中で～ 伊藤 哲夫 先生	班別輪読
11:30			
12:00		質疑応答 写真撮影	
12:30			昼食
13:00		昼食	
13:30			全体感想自由発表 感想文執筆 閉会式
14:00		班別研修	（14:00 終了）
14:30			
15:00		皇室に受け継がれる 慈悲の御心 小柳 左門 先生	短歌全体批評 指導：内海勝彦氏
15:30			
16:00		班別研修	
16:30		（日帰り参加者は感想文執筆後退所）	
17:00			
17:30		夕食	
18:00	（前泊者18時までに集合）	休憩	
18:30	夕食		
19:00		若き日の吉田松陰に学ぶ ～「黒船来航」を松陰はどう見たか～ 久米 秀俊 氏	
19:30	自己紹介 短歌導入及び名歌鑑賞 森田仁士氏		
20:00		班別研修	
20:30	班別研修		
21:00			
21:30	入浴・休憩	入浴・休憩	
22:00			
22:30	就寝	就寝	
23:00	消灯	消灯	

第六十七回「合宿教室」(主会場)のあらまし

第一日目

(九月三日・土曜日)

第六十七回全国学生青年合宿教室の《主会場》(合宿は、コロナウイルス感染症第七波の蔓延に配慮しつつ、東京都八王子市の「大学セミナーハウス」に於いて開催された。《主会場》合宿は、当初は九月二日(金)からの二泊三日の日程で企画されたが、ウィルス禍の現状から三密(密閉・密集・密接)を回避するべく、九月三日(土)からの一泊二日に短縮された。そのため合宿教室の重要な字びである「短歌研修」は、学生参加者を主な対象として変則ながら日程の前後に事前研修(短歌創作導入及び名歌鑑賞)及び事後研修(短歌全体批評)として実施された。

また《主会場》合宿の講義は録画の上、伊藤哲夫先生、小柳左門先生お二方の講義が《地方会場》(関西、福岡二会場、熊本、長崎、鹿児島)の計六会場)で視聴され、集合研修が行はれた。

開会式(九月三日午前十時)

国歌斉唱に続いて、平時戦時を問はず祖国日本のために尊い生命を捧げられた全ての祖先のみ霊に一分間の黙禱が捧げられた。小柳志乃夫理事長は開会の挨拶の中で「コロナ禍により対面での合宿が二年間でできなかったため、今年は三年振りの宿泊を伴ふ開催となった。先ほどの開会式で、《平時戦時を問はず祖国日本のために尊い生命を捧げられた全ての祖先のみ霊》に黙禱を捧げたが、私が学生時代に参加した時は、その直前に亡くなった祖父のことを思ひ起した。皆さんは何方のことを思ひ浮べたでせうか。父母を、祖父を、さらに曾祖父と遡る祖先の生命のつながりの中に私たちは生きてゐる。その時代時代に生きた先人たちの心をその遺された言葉に学ぶことが大切だと思ふ。

この合宿では、講義を含め人の話を良く聞いて欲しい。知ってゐることを話すのは易しいが、人の話をじっくりと聞いて、その上で自分の思ひを語ることは容易ではない。講義を聴いた後の班別研修は、さうした話し合ひの場として貰ひたい」と述べた。

講義（午前十時十五分） 「今、日本に問はれてゐる歴史的課題―激動する国際情勢の中で―」

日本政策研究センター代表 伊藤 哲夫 先生



今、日本が直面してゐる重大課題は、全ての日本人が「国家」と向き合はざるを得ない時代がやってきたといふことだ。特に今年二月に勃発したロシアによるウクライナ侵略は「非武装平和主義、国連信仰、米国による平和」といった戦後神話が崩壊して、国家（国境）なき経済は幻想であつて、「経済は国家とは不可分」といふことを明確にした。しかしなぜ今の日本では危機感が乏しいのか。それは国民一人一人が「国家」について考へてゐないからであり、さうなつてしまつた背景には「国家の物理的・精神的弱体化」を図つた占領軍政策がある。

また、日本国憲法前文とアメリカ合衆国憲法前文を比較すると、日本国憲法には国民の権利ばかりがあつて、義務が抜けてゐることがわかる。そして国民は代償を払はず福利を享受するといふ虚偽の内容となつてゐる。国家を「国家」たらしめる「国防」については世界各国の憲法に謳はれてゐるが、「国防」といふ点が抜け落ちてゐる異常な日本国憲法前文が「国家観なき国民」を作り出してゐる。今の日本人の多くは自分といふ人格に戦後教育をベタベタと貼付けて、それが自分だと思つてゐる。自然を見ては美しいと感ずる心をもつ自分こそが本当の自分といふことではないのか。かつて小田村寅二郎先生（国民文化研究会初代理事長）から知識を振り回す「あたま言葉」ではなく、自らの心から発する「こころ言葉」こそが大切だといふことを教へられた。安倍元総理が二次政権時に掲げた「日本を取り戻す」の「日本」とは元総理の万感の思ひが込められた「日本」であつて、さうした「国家」を取り戻すといふ意味に他ならなかつた。今の我々が「日本を取り戻す」ためには憲法改正が必要であり、「国家存立のために自衛隊を保持する」といふ「自衛隊明記」を実現しなければならぬ。それによつて戦後日本を左右してきた国政に構造変化が起さる。

講義拝聴後、班に分かれた参加者は、講師の真意はどこにあったのか、講義を聞いて気付かされたこと、考へさせられたことは何か、等々について語り合った。なほ班別研修は各講義の後も繰り返して実施された。

講義 (午後二時三十分) 「皇室に受け継がれる慈悲の御心」

学校法人原看護専門学校校長 小柳 左門 先生



私も学生時代に合宿教室に参加したが、振り返って思ふことは「天皇様のことを学ぶことができたのが一番よかった」といふことである。皇室が長く続いて来たのは慈悲の御心によるものであると思ふ。それは歴代の天皇や皇室の方々が遺された御製や御歌、御言葉から現に仰ぐことができる。

聖徳太子に行き倒れになった人を「：飯に飢て 臥せる その旅人あはれ」と詠まれた片岡山の御歌や御妃が亡くなられた際の「富の井の水」の御歌があるが、そこから太子の民やご家族への深い愛情が感じられる。また、光明皇后による悲田院、施薬院の設置、宇多天皇、光格天皇の御言葉などからも無私の心や民への慈悲のお心が通底してゐることが拝察される。

近代に入っても、大正時代の貞明皇后から三代の皇后陛下の御歌を拝すると、御三方ともハンセン病患者や戦災孤児との触れ合ひを通じて、社会で注目されぬままに苦しむ人々に対して深い愛情を向けられていらつしやることがわかる。貞明皇后はハンセン病診療所に楓の苗を贈られたが、ハンセン病で入所してゐた歌人の明石海人は「みめぐみはいはまくかしこの本のライ者と生れてわれ悔ゆるなし」と詠んでゐる。皇室の慈悲のお心が民に届いてゐることを示してゐる。香淳皇后には「母とよびわれによりくる幼子のさちをいのりてかしらなでやる」との御歌がある。

昭和天皇は戦後、全国を御巡幸になったが、福岡や佐賀の戦災孤児施設にもお出ましになった。「みほとけの教へ守りてすくす

くと生ひ育つべき子らにさちあれ」といふ御製は、佐賀の因通寺に設けられた戦災孤児施設をご訪問の際、両親の位牌を胸に抱いた孤児の様子にお心を痛められた折のお歌である。悲しみに耐へて健気に振る舞はうと努める子供への深い愛情が感じられる。この時の模様が具体的に記された「天皇さまが泣いてござった」といふ文章をお配りしてあるので、この後の班別研修の中で、ぜひ読んで欲しい。皇室を頂くことのありがたさを改めて感じられると思ふ。

講義（午後七時）「若き日の吉田松陰に学ぶ―「黒船来航」を松陰はどう見たか」

日本港運協会理事 久米 秀俊 氏



過酷な内戦によってインフラに壊滅的な被害を受けたカンボジアは、一九九〇年代以降、日本の支援によって運輸インフラの整備が進んだ。復興を支へたのは日本からのODAであったが、近年では中国によるそれが拡大してゐる。中国の工事は日本よりも素早い反面、雑であり、道路でも結局は日本による工事の方が路面が長持ちする。ただ、日本も中国のスピードやフレキシビリティといった点は見習ふべきである。

私が直接経営に関与してゐる港湾公社においても、資金力にものを言はせた中国の圧力がかかつてゐる。日本を取り巻く危機的な国際状況がカンボジアにおいても見られるわけだが、このやうな状況を国内の日本人は感じ取つてゐるだらうか。吉田松陰の若き幕末の時代も、日本は独立の危機的状況にあつた。改めて吉田松陰の生ひ立ちと国際情勢に注目してみる価値がある。

若き日の松陰は全国を遊学・遊歴してゐたが、黒船来航は松陰がちやうど二度目の江戸遊学中の時であつた。黒船襲来といふ未曾有の事態に、松陰が立ち会つたことは正に運命と言へる。松陰は、黒船を間近に見て、幕府の無為無策を嘆くばかりではなく、「自分は何ができるか」を考へ、速やかに行動に移した。『将及私言』を書いて藩主へ上書しただけでなく、海外渡航を企

てて米艦に乗り込んでゐる（下田踏海の挙）。下田踏海の挙に及ぶ前に、松陰と同志たちは別れを惜しむのであるが、このとき、同志たちの立ち振る舞ひはまさに「志のバトン」を渡したものと云へる。下田踏海の挙までの松陰の来歴は、あまり注目されてこなかったが、今日の日本人に多くのことを教へてくれる。（講師は松陰の原文を辿りつつその思ひを偲んだ）。

第二日目（九月四日・日曜日）

朝の集ひ（午前六時四十五分）

合宿の日程は「朝の集ひ」から始まる。朝の清々しい空気を胸一杯に吸ひながら体操を行ひ、その後、御製拝誦を行った。拝誦担当と御製は次の通りである（前泊者とは合宿初日の九月三日早朝にも朝の集ひを持ち、御製を拝誦した。その時の担当と御製も併せて示す）。

九月四日 担当 清川信彦氏

明治天皇御製

天（明治三十七年）

あさみどり澄みわたりたる大空の広きをおのが心ともがな

上皇陛下御製

道（平成十年）

大学の来しかた示す展示見つつ国開ひらけこし道みちを思ひぬ

今上天皇御製

野（平成二十九年）

岩かげにしたたり落つる山の水大たいが河となりて野を流れゆく

九月三日 担当 古賀智氏

明治天皇御製

灯（明治三十六年）

ともしびの影まばらにも見ゆるかな人すむべくもあらぬ山辺に

虫声（明治四十四年）

さまざまの虫の声にも知られけり生きとし生けるものの思ひは

述懐（明治四十五年）

事しあらば火にも水にも入りなむと思ふがやがて大和魂

「所感発表（午前八時三十分） 「大学生生活と読書会」

東京大学 法学部 三年 渡邊 蒼生 君



入学以来、読書会を通じて、同世代の大学生や国文研会員の方々と交流する中で『古事記』、新渡戸稲造の『武士道』、吉田松陰の文章など、さまざまな古典（言葉）に触れてきた。特に吉田松陰の文章からは松陰の他人に対する誠実さや人間としての大きさ、故郷を思ふ気持ちやひしひしと伝はって来た。読書会での学びは私自身の物の見方、考へ方に大きな影響を及ぼしてゐることが分った。そこで学んだことは三つある。一つ目は何よりも古典を学ぶことができること、二つ目は年齢、性別の壁を越えて対等な関係で古典に関する率直な考へを交はすことができること、三つ目は世代を超えた交流で古典の多様な解釈の可能性を検討できることである。私の大学生生活は読書会と共にあつたと言へる。社会人になっても新しいことを学ぶ大切さ、楽

しさを忘れずに読書会に参加して自らを深めて行きたい。

所感発表（午前九時）「作品と心」

作曲家 武 澤 陽 介 氏



フランスの芸術家、モーリス・ラヴェルは第一次世界大戦に志願兵として参戦するが、戦地に赴く数日前まで「ピアノ三重奏曲」の作曲に取り組んでみた。戦争といふ未曾有の大事が目前に迫り、精神的にも張り詰めた状況の中で作られたこの作品には命が刻まれてゐるやうである。また、第二次大戦で戦死したことでも知られる作曲家ジャン・アランの、家族の無事を祈りつつ書かれた作品は、のちに世界的なオルガニストとなる妹によって演奏された。

人は亡くなっても、作品に心が宿るとはどういふことなのか。

詩人の八木重吉は苦しい病と戦ひながら、深い信仰と家族愛、郷土愛を言葉に残して、若くして亡くなった。しかし、言葉は、生き続けてゐる。切実な人の思ひが刻まれた作品は、後世の我々の心を強く揺さぶり、いつも深い感動を与へてくれる。先人の思ひの刻まれた作品に真摯に向き合つて、学び味はふことは後世に生きる我々の使命であると思つてゐる。

講義（午前九時三十分）「西郷南洲に学ぶ」

元（株）アルバック 北 濱 道 氏

この合宿で、多くの良き言葉に出会つた。中でも伊藤哲夫先生ご紹介になつた小田村寅二郎先生ご指摘の「あたま言葉」ではなく「こころ言葉」をと、今朝の御製拜誦で清川信彦さんが述べた「狭い心」から「広い心」へとは、どちらもいいなと思つ



た。拝誦された明治天皇御製「あさみどり澄みわたりたる大空の広きおのが心ともがな」は、これから秋になって、空が透き通るやうに青く晴れて、広く拡がってゆく。その美しさを自然描写に留めることなく、空に向って心を開いてゆかれたお歌と拝してゐる。かつてこのお歌を読んだ時、受験に失敗したらどうしようかなどと思ひ悩んでゐたのだが、失敗したらそれでよいではないかと思ふやうになった。気持ちの持ちやうで、自分に捉はれてゐる狭く小さな心が拡がってゆくものだといふことに気づかされた。西郷さんは大変心の広い方であるが、そのことを考へる参考になるかと思つてお話しした。（講師は、この後、配布した「年譜」に拠りながら西郷隆盛の生涯をたどつて、スライドで肖像画、沖永良部島の獄舎生活を模した座像、お墓を映し出しつつ詳しく説明した）。

沖永良部島に流された時の漢詩「獄中感有り」や『西郷南洲遺訓』を読めば、その覚悟と人間としての修養の深さは只事ではないことが伝はつてくる。中でも遺訓二七条の「自ら過つたときへ思ひ付かば夫れにて善し。其事をば棄て顧みず、直ちに一步踏み出すべし」との一節の持つ明るい前向きな力強さには魅かれるものがある。西郷さんの言葉に、ぜひ追つて貰ひたい。

全体感想自由発表（午後一時）

司会の呼びかけに導かれ、胸中の思ひが次々と披歴された。「大西郷に喝を入れられた」「大好きな日本を守るために歴史をもつと知りたい」「日本のために何ができるかを考へるよい機会になった」「個人の幸福以上に国家として幸福を追求する姿勢を感じた」「自分に厳しく人に優しい西郷さんを見習ひたい」「『追求するのが自分の幸福だけではつまらない』といふ伊藤哲夫先生の御言葉が心に残つた」「上皇后陛下の慈悲のお心に心打たれた」「和歌では、自分の心情を素直に表現することができることに驚いた」「一つ感想があるとすれば、言葉で自分の思ひを表現するのが、こんなに難しいものなのか、といふ事です」。

閉会式（午後一時四十五分）

池松伸典副理事長は、合宿の諸講義を振り返りながら、「この合宿で二泊された方や一泊にとどまった方もめられたが、やはり寝食を共にしながら、講義を聴いて、その都度班別での話し合ひを重ねる合宿は大切だと改めて痛感した。先人の言葉を味ひながら、自らの心で感じたことを語り合ふ合宿教室の意義は大きなものがある。

この合宿で自らの心を見つめることの難しさを体験された方もいらつしやると思ふ。合宿は間もなく閉会するが、それは新たな学びのスタートのはずである。普段の日常生活に戻ればここでの学びも薄らぐことにもなりかねないが、国文研では月例の〈読書会〉や〈短歌の会〉を実施してゐる。オンラインでの参加も可能となつてゐる。自らを磨く学びを今後も続けていきたいと呼びかけた。

《「一泊二日」の日程前後に実施された「短歌研修」》

事前研修（九月二日 午後七時）「短歌創作導入及び名歌鑑賞 ―「しきしまの道」へようこそ―」

新門司病院 診療放射線技師 森 田 仁 士 氏



この合宿教室では、参加者全員が短歌を詠むことを続けてゐる。短歌を作る意義はどういふことか。病床にあつて執筆を続ける占部賢志会員が正岡子規の「足たたば」の短歌に触発されて書かれた文章及び占部氏自身の短歌「案山子のうた」を読むと、闘病中の氏が短歌を詠むことで悲しみの心をしかと受け止めて打ち克つ胸中が伝はってくる。短歌を詠む意義は「心を歌に映して、心を養ふ」ことにある。さらに、占部氏宛に友人から送られた短歌を読むと、「短歌による心の交流の世界」の広がりをも具体的に知ることができる。

万葉集、源実朝、長塚節などの名歌と呼ばれる短歌を味はひ鑑賞することで短歌が一層身近になるし、詠みたくなるのではなからうか。短歌創作上の原則（三十一字の定型詩、一首一文）を踏まへながら、鏡に自分の姿を映すのと同じやうに、心を歌にうつして、心を正し養ふといふ「しきしまの道」を、皆さんも歩まれることを期待する。

事後研修（九月四日午後二時三十分） 「短歌全体批評」

元（株）IHI 内海 勝彦氏



一昨日の「短歌創作導入及び名歌鑑賞」の後に詠まれた参加学生の歌は三十一首であった。それぞれについて一首一首を見させてもらったが、その主な観点は森田講師が語った短歌創作の原則にそってゐるかどうかである。つまり、感じたことが五七五七七の音律になってゐるかどうか、一首一文、則ち一つの文章で一つの歌が構成されてゐるかどうかである。仮名遣ひに関しては、初心者には現代仮名遣ひでも構はないが、徐々に歴史的仮名遣ひに慣れていってほしい。歌を詠む際の表現には歴史的仮名遣ひがよく調和するし、短歌はもともと文語定型詩だからである、

女子学生の「坂の上先は希望に溢るると感じて我は上りゆきけり」といふこの合宿への期待を詠んだ歌や、男子学生の「合宿で思ひがけずにできた友と好きな音楽語りて嬉し」といふ合宿で得た友のことを詠んだ歌など、素直な気持ちが伝はってくる歌が多かった。これからも、うまく歌を詠まうとするより「正確に」詠むこと。そして歌は人の「心と心を通はせる」ものであることを忘れずに、合宿後も継続して短歌に親しんでもらひたいと願つてゐる。

合宿運営

【本部】

運営委員長

若築建設(株)

新門司病院

(一社) 日本港運協会

(株) アイセルネットワークス

元(株)アルバック

ヤフー(株)

池松伸典

森田仁士

久米秀俊

最知浩一

北濱 道

高橋俊太郎

【事務局】

事務局長

国民文化研究会事務局長

元(株) 講談社

元 東急建設(株)

元(株) I H I

国民文化研究会事務員

飯島隆史

磯貝保博

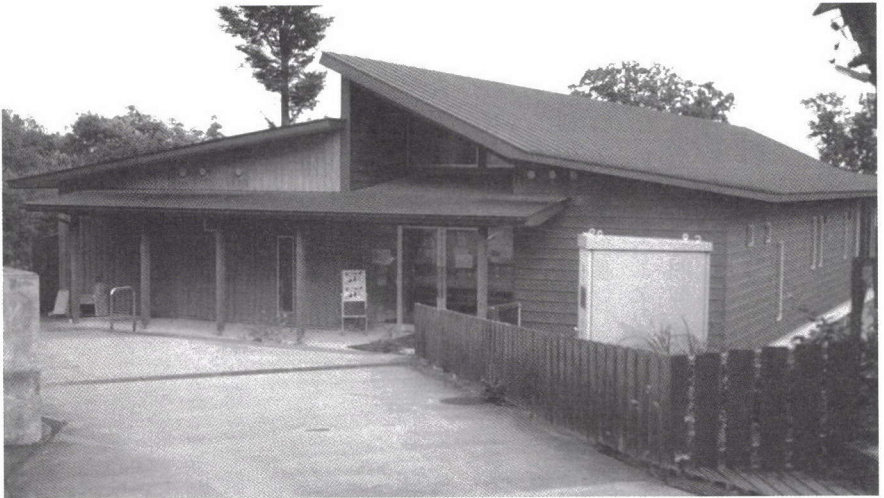
奥富修一

内海勝彦

栗方恵美子

走り書き 感想文

これは閉会間ぎはの短時間で参加者に、合宿中の感想を走り書きで書いてもらったものです。「仮名遣ひ」は原文のまま掲載してあります。



第一班

日常生活に、合宿の学びを取り入れたい

(芝浦工業大学 システム理工 一年 北崎仁彬)

初日の「しきしまの道へようこそ」と題する森田仁士先生の御講義で、うまく詠もうとするより、正確に詠もうと心掛けることが大切だと仰ってました。誇張やみえを張るのではなく、ありのままの気持ち伝えれば良いのだと知り、和歌がより身近に、より楽しく感じました。

翌日は、小柳左門先生の御講義で、宇多天皇の「上、天を怨みず、下、人をとがめず、朕が不徳、ひとり自らこれを取れるのみ」という言葉に心を打たれました。自分は今まで、物事が上手くいかないのは環境のせいにしていました。周りを責めるのではなく、自分の行動を改めることによつて、日常生活に、合宿の学びを取り入れようと思います。

多くの人に信頼、期待されるように行動したい

(中央大学 理工 一年 木村優花)

私はこの三日間の合宿を経て、新たに発見できたこと、知ることができたことが多くありました。まず、一日目に行は

れた短歌についての講義です。和歌は一句一句を考えながら文字を並べ、時間をかけてじっくりと作り上げるものであるため、その分、その時の感情や情景が鮮明に思い出されるのではないかと考えました。二つ目に、合宿を通じて国家についてや自分が今やるべきこと、考えなければいけない問題に目を背けていたことに気づかされました。私は、大学で教職課程を取っておりま。今回、憲法前文のおかしな点、吉田松陰の行動力、国民から愛される天皇陛下等、いくつもの素晴らしい講義を聞いて、私も少しでも多くの人に信頼、期待されるように行動したいと強く感じました。

短歌をはじめ励んでいきたい

(長崎大学 環境科学 二年 安慶名音鈴)

伊藤哲夫先生の講義に、国家をいかに自分の問題として捉えるか、私は国のために何ができるのだろうかと考えさせられました。そして、今回の合宿全体を通して、自分の欲や利益のためでなく、他のために行動することの尊さを感じました。私は、大学一年の時に出会った、明治天皇御製の「おのが身はかへりみずして人のためつくすぞ人のつとめなりける」を目標とし、これまで励んできました。しかし、人のためと思つて行動したくても、どこかできていない自分に、モヤモヤしてしまいます。今回沢山の尊敬できる先人や先生方にお会いし、少しでも近づきたいと思いました。そのために

も、これから自分の心を正確に見つめ、相手の心の動きにも敏感になっていけるよう、短歌をはじめ励んでいきたいと思
います。

同郷の大西郷から喝を入れられた

(福岡教育大学 教 二年 竹下和真)

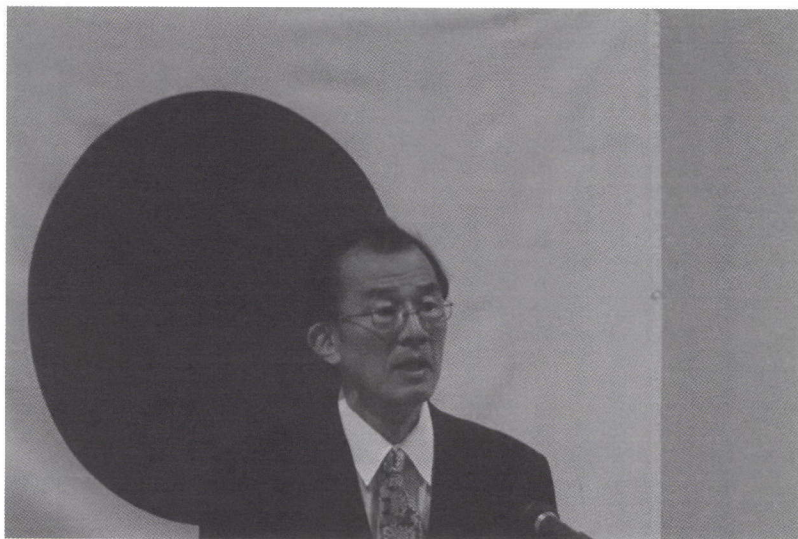
私は自分の心と向き合い、正確な言葉に表すということが
とても苦手で難しいと感じてしまいます。最近、私自身のそ
ういった気質のせいでサークルの後輩を傷つけてしまったこ
とがあり、今回の合宿ではそれを思い悩みながらの参加とな
りました。そんな中で様々な講師のお話をお聞きし自分がど
うあるべきなのか学びを得ることができました。特に印象に
残っているのは『西郷南洲遺訓』の二七「過ちを改むるに、
……」という文章です。私は悩むばかりで一步踏み出すことを
躊躇していました。その私に同じ鹿児島出身の大西郷から
喝を入れられたように思ったのです。また、ご歴代の天皇陛
下が国民をいかに偲ばれていたかを知り、私も人を思い、心
に寄り添えるようになりたいと強い憧れを持ちました。

学びをこれからも続けていきたい

(東京大学 法 三年 渡邊蒼生)

今回の合宿で一番印象に残ったのは、学生所感発表をさせ

カメラ・レポート1



開会式。小柳志乃夫理事長は、「この合宿では、講義を含め人の話を良く聞いて欲しい。知ってゐることを話すのは易しいが、人の話をじっくりと聞いて、その上で自分の思ひを語ることは容易ではない。講義を聴いた後の班別研修は、さうした話し合ひの場として貰ひたい」と述べた。

ていただいたことです。発表は、大学に入学してから学んできたことを振り返る機会となり、自分が今まで多くのことを学んできたことに気付かされました。また、発表後の班別研修で、皆さんから温かい感想を頂いたことも記憶に残りました。大学入試を通じて出会った明治天皇の御製との運命的な出会いを皆さんにお伝えすることができました。感想で御製に関するものを多くいただき、しっかりとその時の感動が伝わったことを確認することができました。西郷南洲遺訓と伊藤哲夫先生の講義に「国家観」という共通点があることに気付けたことも印象的でした。学び同士のつながりを増してゆけるよう、学びをこれからも続けていきたいと感じました。

私は「慈悲を一身に受けてゐる

日本国民の一人なのだ

(福岡教育大学 教 四年 宮田有人)

小柳左門先生のご講義に私は本当に心を打たれた。特に感動したのは、上皇后陛下の御歌「語るなく重きを負ひし君が肩に早春の日差し静かにそそぐ」と「天皇さまが泣いてござった」の昭和天皇の御姿だ。想像もつきもしないような悲しみと苦しみ、重責を背負いながらも耐え、ひとえに国民に慈悲のお心で祈っていらつしやる上皇陛下と、その御姿にどこまでも寄り添われる上皇后様の御姿、また、父と母を亡くした女の子に思わず頭をなで、涙を流されながら「幸せで」と

お言葉を掛けられる昭和天皇様の御姿に、本当に心を打たれた。日本は天皇皇后様の慈悲の心と共に歴史を歩んで来、私はそのご慈悲を一身に受けてゐる日本国民の一人なのだと感じた。

諸講義に通底するものを学生さんが掴んでくれた

(西日本電信電話(株) 武田有朋)

一泊二日といふ短い時間でしたが、ご講義の内容に学生の皆さんがそれぞれに正面から向き合ひ、班別研修では自らの考へや行ひにどう生かしてゆくかを語ってくれ、大変ありがたい時間でした。伊藤哲夫先生の仰った「国家をどう捉へるか」といふこと、小柳左門先生が多くの御製、御歌を通して伝へられた皇室に連綿と受け継がれる慈悲の心、久米秀俊先生が伝へられた吉田松陰の行動力と言葉、北濱道先生が引かれた南洲遺訓、それぞれに通底するものがあり、そこを学生の皆さんが掴んでくれたことは大変良いことだったと思ひます。私も初心に戻れた心持が致しました。国際情勢の緊迫度はますます高まり、我が国の将来が危ぶまれる所、私達が心して考へるべき内容ばかりのご講義であつたと思ひます。

「心ことば」を鍛える日々を送りたい

(全日本学生文化会議 梶島明美)

今回の合宿で心に残ったのは、伊藤哲夫講師が述べられた「心ことば」と「心ことば」です。「頭ことば」というのは、知識や理屈を並べたことばであり、「心ことば」というのは、感動に裏打ちされたことばではないかと拝察します。伊藤講師は小田村寅二郎先生より「頭ことばではだめだ」と指摘されたとのことでしたが、では「心ことば」はどの様に鍛えていけばいいのかを考えさせられました。合宿中、様々なご講義を受ける中で、和歌によって「心ことば」が鍛えられるのではないかと思いました。とりわけ、森田仁士講師と小柳左門講師のご講義を受け、お二方の和歌の捉え方や詠者の思いを機微に感じ取られているご姿勢を拝見し、これこそが「心ことば」だと感じました。お二方の感動を通して詠者の思いが伝わり、私自身の心が大変うごかされました。とりわけ占部賢志先生の案山子のうたに込められた悲しみ、苦しみ、そして力づくよく生きていこうとされる生命力を感じ、心動かされると共に、和歌の持つ力を感じました。和歌を通して物事の機微を捉えることで伊藤先生の様に世界や国の情勢を正確に捉えることが出来るとも思い、「心ことば」を鍛える日々を送りたいと思います。

カメラ・レポート2



講義。日本政策研究センター代表伊藤哲夫先生は、今の我々が「日本を取り戻す」ためには憲法改正が必要であり、「国家存立のために自衛隊を保持する」といふ「自衛隊明記」を実現しなければならない。それによって戦後日本を左右してきた国政に構造変化が起きる。と指摘された。

日本に生まれてよかった

(元外務省 加来至誠)

涙が出る程にうれしい合宿教室の一日でした。日本に生まれてよかった、と心から思いました。伊藤哲夫先生、小柳左門先生、久米秀俊先生、各先生のご講義、夫々に深奥に響き、感動強く、今後、志を共にする諸友と連帯していくことの大切さを痛感しました。平素接する機会の少ない若者達の場合に、彼ら彼女らの声に耳を傾けることができたこと、まことに貴重でした。その若者たちが、私と同じく涙あふれる程に感動を覚えている姿に接し、世代を超えて、大切なものは伝わっていくのだとの確信を得られたことは実にありがたい、国脈は絶ゆることなしと強く思わしめるものでした。その国脈の搏動をいかに強めていくか、工夫努力を要するところ、諸兄弟と智慧を交換していきたく存じます。

日本人の心の琴線に触れるやうな御話であった

(戸田建設(株) 青山直幸)

伊藤哲夫先生の御講義は、現在日本が直面してゐる多くの課題の根柢に横たはる「国家」に対する意識の喪失といふ問題を提起された内容であった。憲法前文を丁寧に通られ「国家自立への意思」の言葉がどこにもないことを厳しく指摘され、根本的な欠陥があることにあらためて気づかされた。

小柳左門先生の御講義は、慈悲の御心が、皇室に脈々と受け継がれてゐることを具体的な御歌や御手紙等を辿りながら話された。近代の皇后様方が、光明皇后の御心を敬慕されつつ、貧民やハンセン病患者の援助等をされたことを御歌を通して知り、深く心を動かされた。班別研修で学生諸君の感想を聞いたが、深く感動した様子で、嬉しかった。日本人の心の琴線に触れるやうな御話であった。

第二班

私にとって「国家」とは「歴史・伝統・文化」だ

(福岡教育大学 教 二年 山田快生)

伊藤哲夫先生のご講義で、私達国民は主権者としての責任がなく、「国家」を考えないという話が印象に残りました。班別研修で「国家」とは何か」という話が上がりました。私にとって「国家」とは「歴史・伝統・文化」だと思っています。

日本が重ねてきた歴史、大切にして続いてきた文化や伝統を守ること、つないでいくことが私にとって「日本」(国家)を守ることだと思っています。「国家」を考えてもらう為にもまず日本の事を私が正しく知り、伝えていきたいです。今回の合宿で小柳左門先生にいただいた皇室のお話や、国文研の先生方に講義していただいた松陰先生や西郷さんのお話か

ら受けた感動を大切にし、将来教員となった際に子どもたちにこのような先人方の素晴らしい姿を伝えていきます。

「国家」について深く考えさせられた

(東京大学 教養 二年 辻本栄介)

伊藤哲夫先生の講義では、「国家」という存在に対して我々がどのように向き合うべきかという点について、深く考えさせられました。特に、日本では国民はただ自らの権利を主張し恩恵を受けようとするのみで責任を果たそうとする姿勢に欠けているというご指摘には、このコロナにおける状況や、選挙における投票率などを鑑みても、正にその通りであるかと強く感じました。非常に難しい問題ではありますが、まずは、自衛隊などの、国防、あるいは憲法に関する問題や少子化の問題などについて、自分の問題として真剣に考えるところから始めてゆきたいと思います。

御歌を読んで自分の間違いに気づいた

(聖心女子大学 現代教養 二年 松浦史帆)

ご皇室に関してとても興味があった。光格天皇の「天下万民をのみ慈悲仁恵に存じ候」の「のみ」というところに、強い確信をお持ちなんだということを思い、わずか十歳で即位された方の二十年がこの言葉に詰まっているのだと思った。

カメラ・レポート 3



講義。原看護専門学校校長小柳左門先生は、「皇室が長く続いて来たのは慈悲の御心によるものであると思ふ。それは歴代の天皇や皇室の方々で遺された御製や御歌、御言葉から現に仰ぐことができる」と述べられた。

光明皇后、貞明皇后、香淳皇后、上皇后と、どの方も様々なお思いを詠まれているが、中でもライ病に関するものが共通している。何度かハンセン病療養施設に訪問したことがあるため少し共感するところがあつたが、高校生の当時怖いと思つてた。そこが根本から間違つていたのだと御歌を読み思つた。相手に心を寄せ、慈しみの御心を持つ方々。そのような素晴らしい方々が見守つて下さつている国だから、私達は今、幸せに生きていられるのだと思つた。

心言葉を大切にしたい

(長崎大学 経 三年 地徳奏汰)

今回一番心に残つた講義が伊藤哲夫先生のご講義でした。個人の幸福のみを考え、国家の将来を考えず、その結果少子化、社会保障の崩壊による個人幸福の消滅という逆説、台湾危機など、今全ての問題で国家が問われているという点で国家意識を持つ意義が自分の中でストンと腑に落ちました。「追及すべきが自分の幸福だけなんてつまらないでしょう」。伊藤先生の言葉が心に残ります。国家という視点を持ち、自分を考え、また自分の周りの人が国家という視点から人のつながりを感じられるよう励みたいと思ひました。頭言葉を重ねても仕方ない。心言葉を大切にしたい。「天を相手に」―お天とさまは見ている。郷土の偉人西郷さんを学び正道を学んでいきたい。

仲間に愛情をかけ続けていきたい

(長崎大学 工 四年 中村朱璃)

小柳左門先生のご講義の後の班別討論の際に読ませて頂いた「天皇さまが泣いてござつた」という文章が心に残つております。僕は後輩や同期と話す中で、本気で相手のことを考えられていないのではと感じることがあります。陛下は、位牌を抱えている女の子に対して手を差し伸べられ、「仏の子供はお幸せね。これからも立派に育つておくれよ」とのお言葉をかけられました。父親のように愛情をお掛けになられる御姿にとても感動し、自分には仲間に対する愛情がまだまだ足りていなかったのだと気付かせて頂きました。今後は、陛下のおかげになられている愛情をもっと学び、仲間に愛情をかけ続けていきたいと思ひます。

国家をいかに自分事として考えるかを学んだ

(中村学園大学 栄養科学 四年 田中優妃)

初めに短歌とは、難しいことを書くこうとせず、素直に気持ちを書き、感情を言葉にするということを知つた。次に私たちは国家について考えなければならぬことが分かつた。国民は、国家の主人公であり、主権者として何をするのか、班別研修の際に、森田仁士先生のお言葉から、私が出来ること

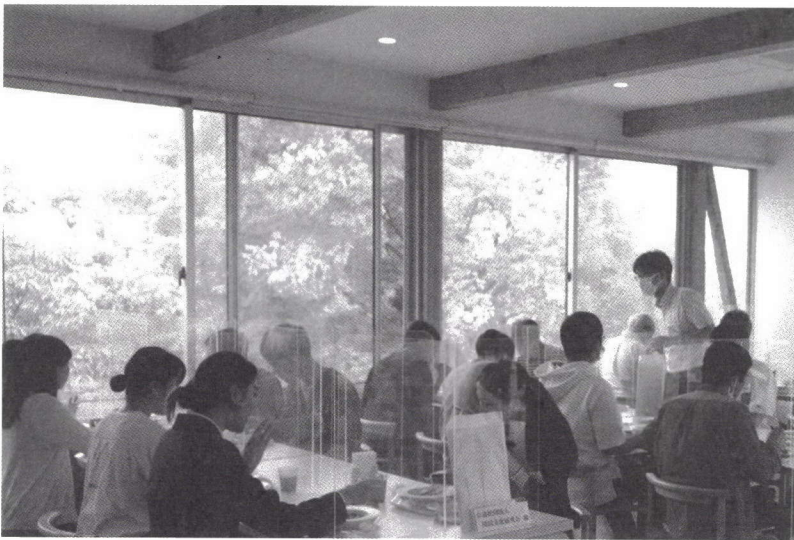
は、仕事を受け持つことであると気づいた。私は大学で食品衛生法や食品添加物の安全性について学んでおり、将来人々が口にする食品の安全を守る職につこうと考えている。これも国のため、国民のためになるだろうと思った。よって、国家をいかに自分事として考えるかを学んだ。そして、皇室に受け継がれる慈悲の御心というのは、制度ではないと知った。

短歌を詠んでゆこうと思います

(東北大学 大学院 馬場崎 岳)

言葉で自分のありのままの想いを表現することは、こんなにも難しいのか：というのが合宿教室を通しての感想です。この所感の裏には、まだ整理がついていないのですが、おそらく、想いを短歌に詠む、又は発言するという行為を何度となく行ってきましたが、ご講演やご発表をうけて抱いた感動の万分の一もあらわしきれなかったという後悔があるからだと思います。あるいは、ご講演やご発表を拝聴したり、ご文章を拝読したりするに際して、いろいろなことを考えながら受け止めようとするのですが、どうしてもまず頭で理解してしまうため、ありのままな想いが観念的になってしまいうからだと思います。これからは、ありのままの感動を、具体的に平明に表現することを忘れないように、短歌を詠んでゆこうと思います。

カメラ・レポート 4



昼食。食堂はコロナ感染対策が徹底されてみた。

泊まりこみで真剣に話し合ふ機会は

かけがへのないものである

(公務員 砂川高道)

非常に密度のある合宿で、講義中はもとより班別研修においても、はつとさせられ、強く心を動かされた。言葉を紡ぐ学生諸君の表情は、それだけで心揺さぶられるものがあり、「難しいね」と返答するのが精一杯であった。

社会人になり、社会のことを考へ、公務員となり国家のことを考へることは増えたものの、泊まりこみで真剣に話し合ふ機会はかけがへのないものである。次回も心待ちにしつつ、関はつた全ての方々に改めて感謝申し上げたい。

少しずつ心の内に生れてくる「心言葉」

(全日本学生文化会議 清川信彦)

今回の合宿教室では、次の御歌が心に残りました。

貞明皇后御歌「荒波をくだかむほどの雄心をやしなひながら守れともし火」貞明皇后が、ほとんどの人が意識することがないであろう燈台守の仕事に御心を寄せられ、御歌をお詠みになられていることに驚きに似た感動を覚えると共に、このような御歌を賜った燈台守の方は、自身の仕事に使命感を持ち、「荒波をくだかむほどの雄心をやしなひながら」仕事に励んでいこうと生きる力をいただいたのではないかと思います。

こうしたご皇室と国民との歌を通じた温かな心のやり取りによって、日本の国柄はここまで長く続いてきたのだと改めて感じました。

伊藤哲夫先生は「私たちにとつての国家とは何か」と問いかけられましたが、その答えは、天皇皇后両陛下の御製・御歌を日々拝誦し、国家を背負った先人方の言葉に学ぶ中で、少しずつ自らの心の内に生れてくる「心言葉」なのではないかと思えます。その「心言葉」を日々自らの心の内に生み出していく学問を学生達と共に重ねていきたいと思えます。

感動に満ちた二日間

(作曲家 武澤陽介)

班付として班別研修に加わり、直前に行われた講義について学生の意見や感想を聞き、多くの驚きや気付きを得た。若い学生は真剣に講義の内容に向き合い考えて深く捉えており、班付である私の方が新たな発見に至ることが多々あった。

現在の社会情勢のこともあり、「国家」について考える機会が増えているように思うが、歴史や文化を改めて学び直すことの大切さを再認識する感動に満ちた二日間だった。

日々、仕事に追われているとつい忘れてしまいがちになる「日本」について、真剣に学ぶため輪読もずっと続けていきたいし、来年の合宿にも参加したい。

参加者の心に届く内容の御講義でとても有難く感じた

(東京大学生産技術研究所客員教授 伊藤哲朗)

伊藤哲夫先生の御講義では国家とは何かを鋭く問いかける内容で、これまで国家というものを意識したことがなかったであろう学生諸君に現下の国際情勢や憲法改正論議が進む状況の中で自分と国家とのかかわりやつながりを考えさせる良ききっかけになったものと思う。班別討論でもそうしたことを考えさせられたとの感想が多く見られた。また講義の中の沖縄戦が無条件降伏を求めようとした連合国の態度を変えさせる大きなきっかけであったとの話は、私自身に改めて沖縄戦の意味を考えさせるものとなった。

小柳左門先生の皇室に受け継がれる慈悲の心についての御講義は多くの御製や御歌、お言葉から聖徳太子をはじめとする皇族方の御心が自ずと伝わる御講義であった。班別討論でもそれぞれに心を動かされた御製や御歌が述べられていた。私自身も皇室の御心を改めて実感できる良い歌を教えて頂いた。

短い期間の合宿教室であるが参加者の心に届く内容の御講義でとても有難く感じた。



講義に真剣に聞き入る参加者。

第三班

「国家なき国民」という重大な課題

(元日本海洋掘削(株) 佐藤忠道)

すばらしい合宿教室を開催いただきありがとうございます。伊藤哲夫先生のご講義よくわかりました。「国家なき国民」は、日本が直面している重大な課題と指摘いただきました。この改善策としては、

(一) 小・中・高の教育を左翼リベラルから中道的視点に立つように改革が必要です。

(二) 「大東亜戦争」をはじめた軍部には責任があるということ、これは、誤りである。この戦争は、アメリカによって、日本は戦争に応じざるを得ませんでした。ルーズベルト大統領の側近には共産主義者が多くいて、ハルノートを書いた人物もその一人。

(三) 日本がしかけられたこの戦争に応じなければ「奴隷の平和」を確保できませんでした。世界中の植民地解放は実現しなかったでしょう。

(四) 東京裁判史観で日本は悪物とされたが、事後裁判という国際法無視の裁判には、事実無根であることの広報をくりかえしてゆきましよう。

(五) 文部科学省の左翼分子を除いてゆきます。専制政治体制の国を望む文部科学省は不要と思いました。

「賢者は古典に学ぶ」を座右の銘としたい

(澤井コンサルタント事務所 澤井直明)

初めて参加させて頂いた。国文研の講座の組立てを知り、私が主宰している人材育成歴史市民塾の志に相通じるものがあり、意を強くした。

先人の熟達した文章や皇室に受けつがれる慈悲の御心にあらためて接することにより、我が国が古より持つ円環構造の意識にも思いを近づける事が出来た事も幸いであった。円環の心とは森羅万象の全てが循環している事を悟った意識構造であり、木を切ったら植樹をする、鯨を取ったら骨に至る迄全てを利用する、即ちエコの文化を象つてもいる。「与えれば与えられる」にもつながる。一方、西欧の思想は、人は階層構造の頂点に立つというものであり、「今だけ・金だけ・自分だけ」のエゴという世界観を作ってしまう。木を切ったら植樹をしない。鯨をとったら油のみを抜き取り、その他は海に捨ててしまう。

今回は、接する事の少なかった古典にふれて見て、我が国の古よりの人々の生き様は、前述した円環の心に発するもので、言霊の発生原理をも彷彿させてくれるものでもあった。

「賢者は歴史に学ぶ」とされているが、変じて「賢者は古典

に学ぶ」を座右の銘としたい。短歌を朗々と歌う小柳左門先生の姿に、歌から生まれた国日本を感じさせられ、歴史の深掘りをさせて頂いた事に感謝申し上げる次第である。

合宿教室は通過点であり、出発点である

(元富士通(株) 古賀 智)

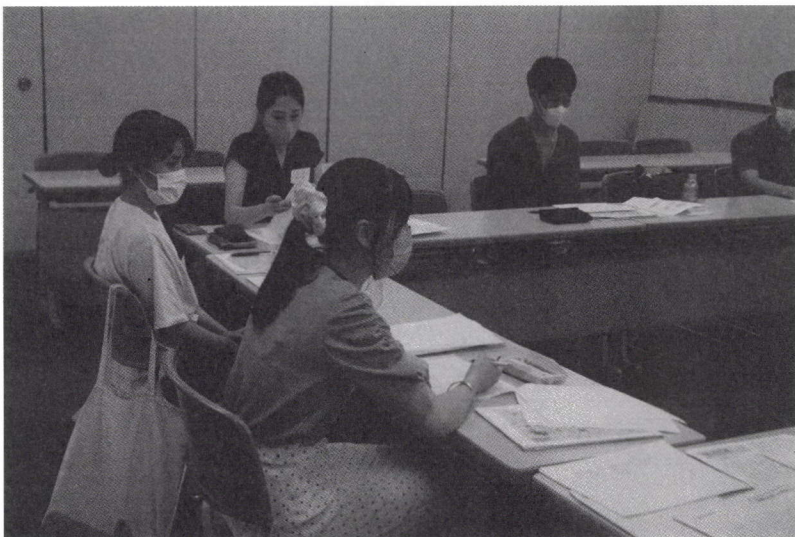
どうも我々は喋り過ぎていけない。發言すべき事柄に自分の持つてゐる様々な智識を付け加へて、朗々と語り続ける事がある。まるで小さな海老に澤山のころもを被せた安物の天婦羅の様である。これでは話のポイントが何なのかをぼやけてしまふ。短歌の様に、ポイントを絞つた短い言葉を用ゐて語るべきである。社會人の班別研修では、班員のそれぞれが幾許かの人生経験を持つてゐるので、ついつい自らの宣傳に近い様な事まで喋つてしまふ。その為に、ポイントから外れてしまふのではないか。大いに反省すべきである。

それぞれの講義の内容はいづれもこれからの勉強の糧にもなり、また呼び水ともなり得るものである。合宿教室は通過点であり、出発点である。

国家意識の大切さを、私なりの言葉で伝えたい

(自営業 小川浩司)

今回初めて参加させて頂きました。一泊二日は短く過ぎ去



班別研修

カメラ・レポート 6

り、改めて正しい国家観が必要と感じました。正しい国家観を養うには歴史から学ぶ事は非常に多く、意義があると感じています。国家観を考える時、現状は致し方無い部分も有るとはいえ、国防と軍備増強とが同じに語られてしまします。軍備増強は喫緊の課題に間違いありませんが、我々一人一人は、国家とは何かを常に問い続け、精神を強く鍛える事が求められていると思います。一人一人の精神が逞しく鍛えられれば、大きなマスコミ等の声には流され難くなり、正しい判断を下せるようになるでしょう。家庭でも知人・友人でも触れ合う方々には国家意識の大切さを、私なりの言葉で伝えて行き続けようと思を新たにしました。

古典の力を強く感じた

(日本青年協議会 別府正智)

古典の力を強く感じる合宿でした。吉田松陰の下田踏海はよく存じていましたが、伊勢本での下田踏海前に行われたこの同志達との会合は、なんと美しい一場面か。

松陰先生らのこのような場を持つ事は今の時代には難しいかもしれない。しかし一人一人には心知る友は居る筈である。なべての友人と国家の大事、日本の伝統文化歴史を語ることには出来ないにしても、そのような心知る友との場を広げて行く営みを地道ながらも努めたい。西郷南洲遺訓輪読については、今の日本の国情と重なることが多く、今の時代における

至言であると思いました。南洲翁は「政府の本務」を簡明に記しておられる。今の時代にあつて、「正道を踏み歩む」との言葉を心に留めたいと思いました。

日本をどのように守っていくかを考えていきたい

(株) プラスワン 津金伸伍

社会情勢や歴史のことを前から勉強しているものの、まだまだ知らなかったこともけっこうあったのです。ごい勉強になりました。

自分達の利益や都合ばかり考えずに他人に対する思いやりや助け合いの精神をもっと学んでいく必要があります、かつての日本人が持っていた美德を取り戻すことが大事です。

日々の暮らしをしているとどうしても忘れがちですが、これからも先人の方々に感謝をして日本をどのように守っていくかを考えていきたいです。

言葉の力

(株) まるぶん 松本航

たくさんさんの素晴らしい講義を受け、全体を通じ、共通して感じたことは、「人」の為に自分ができていることを考え、それを実行する事が大事だという事です。あとは「歴史を知る」という事です。日本の歴史、外国の歴史、偉人の活動記録を覚

えるだけでなく、その活動にいたった経緯、想い、背景を知ること、深掘りすることによって改めて日本人としての素晴らしさが心に残りました。歌（音楽）、絵画のような芸術も含め、言葉の力によって今まで受け継がれてきたものを大事にするとともに、これからの若い世代としてバトンを受けとり、またそのバトンを次に渡せるように努めたいです。

この合宿を新たな挑戦へつなげていきたい

（学校法人 中村学園 江藤智司）

伊藤哲夫先生の御講義の中で「頭、言葉でなく心言葉で語る必要がある」というお言葉がありました。上辺だけの関係、言葉ではなく、相手のことを本当に考えた上での心からの付き合いを増やしていこうと思った次第です。また小柳左門先生からは聖徳太子の詳細な歴史から皇后様の生き様をご講義いただき、献身的な行動がどれほど素晴らしいことか学ばせていただいたとともに、日本人として誇らしい気持ちにもなりました。講義の合間にあった、社会人班でのディスカッションでは年齢に関係なく発言し、皆で内容の整理を行ったこと、普段聞くことのできないお話を生生の先輩方とさせていだいたことも新鮮でした。この合宿を一つのきっかけとして、新たな挑戦へつなげていきたいと思えます。



講義。日本港運協会の久米秀俊氏は、カンボジア現地支援体験の中で具（つぶさ）に感じ取られた中国の圧力と、幕末我が国が西洋列強の圧力を受ける中で吉田松陰の事跡を丁寧に辿り、「下田踏海の拳までの松陰の来歴は、あまり注目されてこなかったが、今日の日本人に多くのことを教へてくれる」と指摘した。

腰を据えて物事を考える良い機会となりました

(J A長野厚生連 市川純也)

昨今の日本を取りまく環境は、発生した問題はいつの間にか解決されていたり、時には思わぬ段階へと進み、目まぐるしく移り変わっています。そんな中での全国学生青年合宿教室は、腰を据えて物事を考える良い機会となりました。伊藤哲夫先生の講義では、日本国憲法の問題点で、福利のみの享受を挙げて解説して下さいましたが、他国に比べこれほどまで偏りのある憲法なのかと驚きました。小柳左門先生の講義では、皇室の方々が二千年以上も我々国民のことを想ってくださっているのを知り、目頭が熱くなりました。

重要なのは、我々一人一人の国家観

(テサヒ飲料(株) 澤部和道)

合宿は伊藤哲夫先生の講義に始まり、国を守るとは、守らんとする国日本はどんな国なのか、全ての日本人が直面する問題を正面から提起して頂いた。決して戦争がしたいわけではなく、戦争を仕掛けられた時に守れるだけの意識、力が必要なのだと改めて感じた。その時に重要なのは、我々一人一人の国家観であり、国家観をもつ為には家庭内で、日常生活の中で自然な形で子供達に伝えていくことが大切だと感じた。

心の交流をはかり絆を深める意味でも

とても大切な場

(元神奈川県立高校教諭 原川猛雄)

国の内外に危機が迫り、日本の行末が心配される折に、今回の合宿に参加できてよかったです。

コロナ感染症や災害、外国からの侵略など危機に直面したときの国の有り方や、防衛体制などに関はる決断を否応なく迫られてみます。然し国論は分裂し、危機意識は希薄です。

今回の合宿では、国家のあり方を見つめ直し、天皇様の御製には国民を思ふ慈悲の大御心を、吉田松陰や西郷隆盛の言葉には、この難しい時代に対処する心構へと精神力を与へられました。

かうして一同に会し、ご講義を聞いたり、共に声を出して輪読したりする学びの場は、お互ひの心の交流をはかり絆を深める意味でもとても大切な場であると思ひました。

国文研班

日本に生を受けた喜びをしみじみと感じた

(元さいたま市役所 井原 稔)

伊藤哲夫先生の御講義は、祖国日本の愛ふべき現状をいか

に打開し克復していくべきかといふ熱量溢れるものであった。日本人はなぜ国家をなくしてしまったのか、その理由はGHQによる占領政策にあり、なかんづく日本国憲法は情けないまでに自虐・自縛の思想そのもので、わが国の歴史や伝統を無視したものである。戦後七十七年を経てもまだ一条だに改正されてゐないことは国民の怠惰以外なものでもない。小柳左門先生の御講義も胸に沁み入る感銘深いものであった。片岡山の御歌に窺はれる聖徳太子の慈悲の御心は歴代天皇に脈々として伝へられ、日本に生を受けた喜びをしみじみと感じることが出来た。「天皇さまが泣いてござった」を班別研修で輪読して感動を共に出来たことは大きな喜びである。

印象深かった昭和天皇御製

(日本大学名誉教授 夜久竹夫)

伊藤哲夫先生の御講演で二つの事を感じた。一つは憲法の中の自衛隊の位置づけに関連して、言葉と実態のずれを認めている事が、最近他の間でも言葉を軽んじる風潮を生んでいると感じた。二つ目に、他国と比べて国家の目標や正義に宗教的裏付けがない事を考えさせられた。この事を考える時が来ていると感じた。

小柳左門先生の御講演で、慈悲の伝統が続いている事を改めて感じた。特に昭和天皇の因通寺、戦災孤児のお話しは印象深かった。中でも最後の「みほとけの教へ守りてすくすく

カメラ・レポート 8



朝の集ひ。朝の清々しい空気を胸一杯に吸ひながら体操を行ひ、その後、御製拝読を行った。

と生ひ育つべき子らに幸あれ」を詠まれた時の解説記事では
古代の伝統が昭和に生きていた事を知らされた。

美しい言葉に触れて行きたい

(NTT 平野耕治)

伊藤哲夫先生のこの講義を得心を持つて拝聴することができ
きました。国家意識を持つて考えて行くこと。世の中を動か
す活動はできませんが、秘めて静に地道ではあります。先
人の本等を読み味わいたいと思います。また、御製に久しぶ
りに触れましたが、美しい言葉だと思ひ、心が洗われます。
日頃の生活の中でも、御製を始め美しい言葉に触れて行き
たいと思います。

御製を通じて皇室の慈悲の御心が偲ばれる

一、今日本人に問われている歴史的課題

(宇野友章)

国民一人一人が国家意識を持つことの重要性及び少しずつ
実現可能な事柄を積み重ねていくことの重要性を学んだ。

二、皇室に受け継がれる慈悲の御心

私達は、今までの文化や伝統を伝えていく義務を負ってお
り、それを自覚し、実践していくことが求められている。そ
の文化・伝統の一つが皇室の慈悲の御心である。御製を通じ

てその慈悲の大御心が偲ばれる。

まっすぐにいつはりなく生きていきたい

(伊佐ホームズ(株) 小柳雄平)

伊藤哲夫先生の御講義では、力強い信念を持ったお考へを
しめしていただきました。政治をすすめるには真の心を持ち
つづけ、場合によっては、その現実にも則して、まはり道をし
ながら、また、小さな一歩をしつかり固めながら行かなけれ
ばならない、といふ様なお言葉は、まことに有難く、実社会
を生きていく中で、又経営をする中で、日々、大事だと実感
してゐることでした。そしてその真の心は、自分一人のもの
ではなく、歴史観、国家観から出る個の心でなければ、持ち
つづけることはできないと確信いたします。皇室の御心はた
だただ有難く、国民としていかに国柄を護り伝えていくかを
考へていかねばならないと思ひます。自分の人生をまっすぐ
にいつはりなく生きていくことを重ねて参ります。

皇室と国民の温かい心の交流の歴史

(株)ミラボ 増田慎一

現代日本人の国家意識の欠如という病とその原点、国家観
再建の道こそ皇室と国民の温かい心の交流の歴史にあること
を学びました。伊藤哲夫先生のお話をお聞きして、国益と国

益が激しくぶつかる国際社会の中ではもう国家観を抜きにして現在の延長線上で物を考えていては自立してゆけない、問題を解決できないことを悟りました。そして、国家観を取り戻す原点として我々日本人の場合はやはり歴史にあることを学びました。古代から現在にいたるまでにあった様々な危機の中で歴代天皇・皇后方の姿勢や言葉を知れば、自づから日本国家はどうあるべきかという国家観も構築されるだろうことと、後はこの日本歴史をどうやって周囲に伝えてゆくべきかもっと真剣に考えてゆかなければならないと思いました。

貴重な御講義を拝聴することができました

(国土地理院 高木 悠)

貴重な御講義を拝聴することができました。小柳左門先生の御講義では皇室の中に慈悲の心が連綿と受け継がれてゐるといふことを御製やみ歌、お言葉を通して感じることができました。調寛雅しんべんがさんの文章（天皇さまが泣いてござった）は、以前にもこの合宿教室で読む機会がありました。何度読んでも感動します。

伊藤哲夫先生の御講義では国家観なき日本について語られ反省させられました。日本といふ国を考へる際にはこのやうな皇室の伝統を常に頭においておく、いや心で理解しておく必要があると感じました。

カメラ・レポート 9



所感発表。東京大学法学部三年渡邊蒼生君（右）は「大学生活と読書会」と題して、作曲家武澤陽介氏（左）は「作品と心」の題にて、所感を述べた。

多くの学生さんがおいでになってみて、

うれしいことだと思ひました

(野々村悦子)

日本も他国も急にいろいろな課題が天からふって来たのか、自らの罪の重なりによりおこって来たのか。しかし他人事ではなくなってしまった今、日本国の国家のあり様を本当に考へねばならなくなり、今日の伊藤哲夫先生の講話を拝聴し、しっかりと考へねばならないと思ひました。具体的に答へはなかなかみつからないが、毎朝、仏壇にお経をあげる時に御先祖様や神様に御導きをお願いすることが、私には出来ることではないかと思ひました。多くの学生さんがおいでになってみて、うれしいことだと思ひました。

合宿に参加して良かったなど毎回思ひます

(野々村美紀子)

伊藤哲夫先生、小柳左門先生、どちらも素晴らしいお話しを伺ふことができ、とても充実した一日を過ごさせていただきました。国家観、ご皇室の慈悲の心、ともに日本に生まれた私たちにとって、この国が、これからの日本をより深く考へていかなければならないと思はされました。

講義の後の班別研修も久し振りに、人と対面で皆さまの感

想を聞くことができ、なんだか嬉しくなりました。合宿に参加して思ふのですが、班別研修で、他の人々の感想が素晴らしいといふことです。いつもこの国のことを真剣に考へられて、さらに行動されてゐるのだなと感心します。

素晴らしい方達に囲まれて、色々なお話しが聞けるので、合宿に参加して良かったなど毎回思ひます。

本部・事務局・ური

宿泊を伴ふ合宿教室開催をうれしく思ふ

(若築建設欄 池松伸典)

柏合宿以来三年ぶりに宿泊を伴ふ合宿教室(主会場)が開催できたことをうれしく思ふ。わづか二泊三日ではあったが、この間、日常の喧騒を離れてじっくりと自分の心を見つめ直し、友らとも語り合ふことができた。コロナ感染のこともあって、だんだんと密な付き合ひが敬遠され、わざわざ出かへなくてもよいオンライン会議が、よく使はれる世の中になつてしまった。実際に相手と出會つて、言葉だけでなく、相手の息遣ひ、表情の中から心意をくみ取る中に、生きた知恵が生まれてくるものと思ふ。

本人の生の文に触れさせることが大切

(新門司病院 森田仁士)

短歌導入及び名歌鑑賞の講義を担当しましたが、占部賢志先輩、折田豊生先輩の貴い精神生活から生まれたお歌を紹介することで、その責をはたすことが出来たかと、有難く思っています。

三年ぶりの対面での宿泊をしての合宿教室でしたが、やはり「たとへ一泊でも」良いものだと思えました。日帰り研修会形式では「友との交流」は難しく、やはり合宿形式だと感じました。

学生班の班別研修に入った感想。知識の収集ではなく、南洲、松陰の心・思ひに学生の気持ちを向かせるためには、本人の生の文に触れさせることが大切だと再確認しました。

自分ができることは何かを考へる機縁になった

(一社) 日本港運協会 久米秀俊)

伊藤哲夫先生のご講義の中で、「頭ことば」と「心ことば」についてお話しされた。「頭ことば」とは、理屈、概念の知的な理解のことば、「心ことば」とは、自分で実感したこと、感動したことを述べたことばだと思ふ。自分で感じたことをしっかりと積み重ねる学びが大切だと思ふ。二〇一四年にロシア

カメラ・レポート 10



講義。元(株)アルバックの北濱道氏は「西郷南洲に学ぶ」と題し、西郷さんは大変心の広い方だった。西郷さんの言葉に自分なりにぜひ迫って貰ひたい、と述べた。

にクリミア侵攻を受けた後、ウクライナはサイバー攻撃に対して、しっかり対応する取り組みをしてゐたとの指摘、日本は事実確認を含めてしっかり学ぶべきと思つた。ロシアの侵攻を受けても電力や通信を失ふことが無かつたことが現在までのウクライナの頑張りにつながつてゐる。中国、ロシア、北朝鮮の高圧的な態度、国際情勢の変化に対し、自分ができることは何かをあらためて考へる機縁になつた。

国民が一つになり疫病に立ち向かひたい

(株)アイセルネットワークス 最知浩一

伊藤哲夫先生のご講義では、終戦から今日まで、国の支柱とも呼べる「国家観」が如何に骨抜きにされ、外交・経済安全保障が脆弱となつてゐるかをつきつけられた。国民全てに国家観の再建が急務である事を改めて痛感した。小柳左門先生のご講義は、聖徳太子の時代から上皇陛下、上皇后陛下までの歴代の天皇、皇后陛下の詠まれたみ歌を中心に実にわかりやすく、そして神代より如何に皇室が国民の事を分けへてなく慈しみ、国の安寧を願ひ、祈つて来られたかを教へていただいた。今日日本はコロナといふ疫病の真只中にあり、終息の出口が見えずもがき苦しんでゐる。今こそ我々の祖先が皇室を中心に心一つにし禍を乗り越えて来たことを思ひ出し、国民が一つになりコロナといふ疫病に立ち向かひたいと思ふ。

西郷さんの言葉の力を思つた

(元(株)アルバック 北濱 道)

「輪読導入講義」を担当した。何を参加者と一緒に読み、考へるか。自然と西郷南洲を思つた。ウクライナ危機を毎日テレビ映像で目の当たりにする中、西郷さんに学ぶべきものがあると思つたのである。だが、どれだけ話せたか。はなはだ心許ない。席に戻つてから、数名の方からお心籠る激励を受けた。また、全体感想発表では、多くの学生さんが西郷さんの言葉に触れた感動を語ってくれた。あらためて西郷さんの言葉の力を思つた。

松陰先生の苛烈な人生について

あらためて驚かされた

(ヤフー(株) 高橋俊太郎)

伊藤哲夫先生のご講義の中で国家観のなさによる危機感について考えさせられました。特に「戦前の国家観に戻るには、もう少し自由があつても良いかと思うが、今は国家について考えてなさすぎる」というお言葉には、何でもかんでも戦前が良かったとは思つていなかったもので、腑に落ちた感じでした。教育勅語についても、そのものの復活でなく、今にあつた形にするのが現実的とのご意見に納得しました。

久米秀俊先生のご講義で、吉田松陰先生の苛烈な人生につ

いて、あらためて驚かされました。最初の江戸遊学がわずかに九カ月で、その間に得た友人のためにやむを得ない理由とはいえ脱藩するのは、松陰先生の真っ直ぐさをよくあらわしているように思います。

気持ちのこもった歌が多くて嬉しかった

(元(株) IHI 内海勝彦)

伊藤哲夫先生の「今の憲法前文には国防といふ点が抜け落ちてゐて、それが国家観なき国民を作り出してゐる」とのご指摘に考へさせられた。伊藤先生は歴史こそ国民を一つにする紐帯と指摘されたが、それを象徴するのが日本の皇室であらう。小柳左門先生は「皇室が長く続いてきたのは慈悲の御心によるものである」と言はれたが、歴代の天皇方や皇室の方々の御歌やお言葉を読まれるのを聞きながら、改めて御心の深さをかみしめた。今回、参加学生の短歌全体批評を担当したが、それぞれに気持ちのこもった歌が多くて嬉しかった。十分に添削しきれない個所も幾つかあったが、学生諸君には合宿後も継続して短歌に親しんでもらひたいと願つてゐる。

守るべき日本の文化がここにある

(昭和音楽大学名誉教授 國武忠彦)

ウクライナ侵攻のことがあり、戦争と平和のことについて、



カメラ・レポート 11

全体感想自由発表。学生が次々と登壇し、思ひの丈を披歴してくれた。

悩んでおりましたので、小柳左門さまの慈悲の心、久米秀俊さまの松陰の言葉、学生さんの発表、北濱道さまの西郷隆盛、そして社会人班での班別討論は大変得ることが多く、ありがとうございました。戦争が起つても守るべき日本の文化がここにあると思いました。

國家と皇室

(柴田梯輔)

日帰りといふ合宿教室としては、異例な形での参加でしたが、合宿教室の雰囲気は充分に感じ取れました。何故感じ取れたのか、その理由が中々思ひ付きませんでした。それが、それは参加してゐる、高齢者たちが醸し出すものではなかつたか、と今では思つてゐます。永年、多くの合宿教室に参加してきた、高齢の會員たちにとっては、合宿の場といふのは、そこに居るだけで、自然に緊張するものなのでせう。その緊張感が清浄感を生み、合宿の雰囲気も浄化してゐたと思ひます。私はこの清浄感の貴重さを大切にしたい、と思つてゐます。

伊藤哲夫先生の講義の後、學生の一人が國家と皇室に關連した質問をしてゐました。伊藤先生は、皇室とは清潔なものである、と答へられてゐました。私もその通りだと思ひながら、『清潔』よりも『清浄』といふ表現のほうが、皇室にはより相應しいのではないか、と思つたものです。

日本人といふ民族は、二千數百年に涉つて、『皇室』といふ『權威』を護つてきました。權威であつて權力ではないのです。その權威も何によるかと言へば、單に『清らか』である、といふだけです。つまり、『清浄』こそが權威の根源なのです。『浄らかさ』だけを『權威』として、三千年近く護り續けた民族とは、世界でも日本人位でせう。私は、その稀少さを、日本人はもつと誇つてもいゝと思ひます。

午後の小柳左門先生の講義では、素晴らしい歌が何首も紹介されました。本居宣長は、「日本語といふ國語は、先づ歌として生れた」と言ひます。和歌とは、日本語の發祥の形だ、と宣長は言ふのです。漢字といふ文字が移入される迄、日本人は文字を持たずに、言ひ傳へだけで、國語を傳承してきました。その日本人が、大切にしてきたのが、和歌を詠む事なのです。歌を詠む事は、時代を超えて、他人に自分の心を傳へる事です。

ですから、和歌も『浄らか』な心から詠まれます。合宿教室といふものも、『浄らか』なものだ、と私は思つてゐます。何故、清浄なのでせう。それは、皇室と和歌を大切にしているからではないでせうか。

國家觀を取り戻すことの大切さを

改めて実感しました

(寺子屋塾 岩越豊雄)

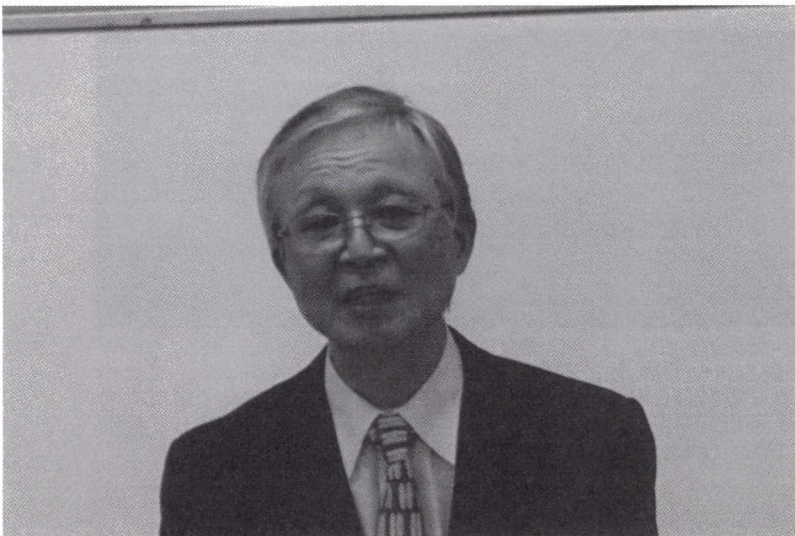
今日本人に問われている歴史的課題、伊藤哲夫先生のご講義により日本人が戦後失った国家観を取り戻すことの大切さを改めて実感しました。特にロシアによるウクライナ侵略が日本人の多くの人々を目覚めさせてくれたと思います。それは、自分の国は自分達国民が守らなければならぬという事です。ただ平和平和、戦争反対、平和憲法を守れと叫ぶだけで自国の平和は守れません。それには憲法を改正する事が喫緊の課題であり、国家存立のために自衛隊を保持すると明確にすべきです。それから、戦後レジームの大きな問題は、アメリカの個人主義を入れ親も子も平等。先生も生徒も平等の人間観となり、利己主義が蔓延したことです。光格天皇も学ばれた論語素読の普及や教育勅語の復活が望まれます。

日々のなすべきことをやるのみである

(元拓殖大学日本文化研究所 客員教授 山内健生)

伊藤哲夫先生、小柳左門先生、久米秀俊講師の講義を聴講したが、お話を聞きつつ、ふと国情を思ふと、講義の内容から遠く隔たつてゐる「戦後日本」の現状に慄然たるものを覚えざるを得なかった。現状の問題点を指摘することは容易であるが、さうした中で生きてゐる現実の自分はどうあつたらいいのか。日々の生き方があらためて問はれてゐると思ふ。毎回同様の感想を覚えるが、問題点を常に（現象的には様々

カメラ・レポート 12



事前研修。短歌創作導入及び名歌鑑賞。新門司病院の森田仁士氏は、短歌創作上の原則（三十一字の定型詩、一首一文）を踏まへながら、鏡に自分の姿を映すのと同じやうに、心を歌にうつして、心を正し養ふといふ「しきしまの道」を、皆さんも歩まれることを期待する、と述べた。

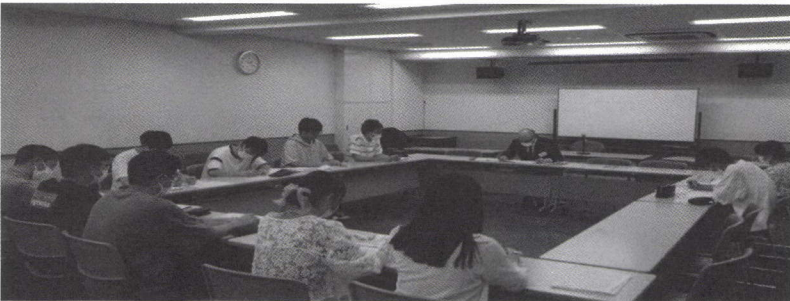
な形となって表はれるが）見つめつつ、それへの厳しい目差しを抱きつつ、日々のなすべきことをやるのみである。（従前のやうにフルの日程でやれたら、学生諸君にはもつともつと強い学びの契機を与えられるだらうと思ふと、短縮日程はやむを得ないことではあるが、残念である。）

これだけは何としても喰い止めたいものです

（足立靖枝）

「日本が危い、目覚めよ。日本！」と警鐘を鳴らして歩きまわりたい心境の時、伊藤哲夫先生の、今こそ国家の意味を考えるべきとのお言葉で始まるお話は、身に沁みました。小柳左門先生のレジメにあった因通寺での昭和天皇の御様子や名歌の数々は、貴重な資料となりました。同封されていた「情と日本人」も有難く拝読しました。最後の頁に「日本民族の滅亡だけは何としても喰い止めたいと思う 岡潔」とあり、ドキッとしました。伊藤先生のお話で新生児がこの数年激減し、一三年後には新生児は50万人ぐらいとなる。その半数が女子とすると、子供を産める女性は20〜30万人ぐらいと聞き、気が滅入っていました。日本民族滅亡の予兆が数字で示されている。これだけは何としても喰い止めたいものです。

カメラ・レポート 13



事後研修 短歌全体批評。元（株）IHI 内海勝彦氏は、参加学生の歌全てについて丁寧に批評を加へ、「素直な気持ちか伝はってくる歌が多かった。これからは、うまく歌を詠まうとするより『正確に』詠むこと。そして歌は人の『心と心を通はせる』ものであることを忘れずに、合宿後も継続して短歌に親しんでもらひたいと願ってゐる」と述べた。

合宿中に創作された“短歌詠草”

——しきしまのみち——



短歌創作について

この合宿教室では、これまで主催者を含めて学生青年諸君全員が短歌を作って参りました。

短歌は、現代においては、人々の日常生活には馴染みの薄いものとなり、文学的趣味の一つとしてしか受け容れられなくなつてをります。従つて、この合宿教室に初めて参加する学生青年諸君にとつて、短歌創作は大きな戸惑ひであり、かなりの負担でさへあるかに見受けられるのですが、合宿生活の中で自らの心の動きを言葉にすることのむづかしさ、まごころの籠つた言葉の奥深い味はひを多少なりとも体験して行く中で、次第に、その意味が把握されて行つた様に思はれます。

そもそも日本人は、千数百年の昔から、「万葉集」に見られるやうに、あらゆる身分・職業の人々が、学問知識の深淺、老若男女の相違を越えて、五七五七七の定型の中に、折々の自己の思ひを素直に歌ひ上げてきました。自己の内心を赤裸々に短歌の上に表現することは、同時に厳しい内省を伴ふものです。いはば短歌創作の過程で、厳しい心の鍛錬が行はれるのです。そこで私たちの祖先は、短歌を詠むことを人生の修行の一つの手段と考へて「しきしまの道」とよんできました。日本人は、短歌を詠み交はすことによつて、人間にとつて最も大切な心の働き、情意を厳しく鍛へ合つてきたのです。先祖の歌を学ぶことは、私達一人一人の心の中に先祖の姿を蘇らせる作業であり、自分が紛れもなく先祖とのつながりをもつた日本人であることの発見であり、また自覚なのではないでせうか。

現代の教育では、知識の集積や論理の整合に重きが置かれ、人間にとつて最も根源的な心の問題がなほざりにされてゐます。本合宿では、かうした現代教育の束縛を自ら感知し、そこから一步でも抜け出さうとする営みが、この短歌創作とその後の批評によつて集中的になされてゆきます。心の奥底に眠つてゐるまごころを呼び覚まし、人のまごころに敏感に感じる、素朴にして豊かな人間性を取り戻さうとする試みが、ささやかながらも実現されてゆくこの貴重な経験は、参加者にとつて、忘れがたい印象として心の奥深く刻み込まれるに違ひありません。

今合宿では、コロナウイルス禍を回避するべく、この「短歌研修」は学生参加者を主な対象として、変則ながら、日程の前後

に事前研修（短歌創作導入及び名歌鑑賞）及び事後研修（短歌全体批評）として実施することとなりました。

事前研修日夕刻、国民文化研究会会員の森田仁士氏（新門司病院）により短歌創作導入講義がなされ、短歌を作る上での基本的ルールが指導されました。その後、学生参加者の創作短歌が電子メールにて提出され、歌稿に編集されました。提出された短歌は、事後研修日昼から国民文化研究会会員の内海勝彦氏（元 IHI）によつて短歌全体批評がなされました。心の籠る講評の中で作者の一語一語に含まれる心を偲ばれ、直されてゆく姿に、参加者は短歌批評のあり方を自然に感得したのでした。

短歌創作を通して展開された、まことに稀な精神生活の体験は、参加者一人一人に、言ひ知れぬ喜びをもたらすこととなりました。

ここに収録された学生の短歌の数々は、「短歌全体批評」にて推敲・添削されたものです。これらの短歌の中から瑞々しい貴重な魂の輝きをお読み取りいただければと、心から祈念する次第です。

短歌詠草（しきしまのみち）

第一班

芝浦工業大学 システム理工 一年 北崎仁彬
散歩中シルバーホームの目に止まり祖母坐
すホームはいつこかと思ふ

中央大学 理工 一年 木村優花
昼近き日差しに目覚め驚きであわてて準備
す私の毎日

長崎大学 環境科学 二年 安慶名音鈴
合宿地向かふ折

空覆ひ雲に差し込む大きな道の果てには
何が在るのか
坂の上先は希望に溢ると感じて我は上り
ゆきけり

○
穏やかに鳴く蟬の声聞きたれば緊張ほぐれ
心安らぐ

福岡教育大学 教 二年 竹下和真

森田仁士先生の御講義の中で

占部賢志先生と折田豊生先生の

歌の交流を読み

自らの誠の心と向き合へず偽り繕ふ私の弱
さよ
折田先生の友思はるる数々の歌にこもれる
深きみ情け
合宿で心通はし思ひ合ふ広きところを我は
持ちたし

東京大学 法 三年 渡邊蒼生

森田仁士先生と小柳左門先生の

ご講義をお聴きして
話さるる先生方がそれぞれに涙ぐまれて歌
を読まれし
先生のお姿見れば真心を伝ふる歌の力を感
ず

○
合宿で思ひかけずにできた友と好きな音楽
語りて嬉し
喧騒を離れたる道散歩すれば鼻で吸ふ気の
甘く感じぬ

福岡教育大学 教 四年 宮田有人

「天皇様が泣いてござった」を読み、

昭和天皇の御姿を偲びて

父母のうせにし女の子の頭をば撫で給ひけ
る御心偲ばる

父母のうせにし女の子を思はれて涙せらる
る御姿尊し

幸あれと優しく頭撫で給ふ陛下に「お父さ
ん」と呼びし女の子よ

西日本電信電話（株） 武田有朋

「天皇さまが泣いてござった」を拝読して
すめろぎに頭をなでられし幼子の「お父さ
ん」とふ一言重し

朝の散策の折 全日本学生文化会議 梶島明実

鳥の声の響かふ山の道のぼりすがすがしか
る心地になれり

森田仁士講師のご講義を拝聴して
―占部賢志先生の「案山子のうた」を拝して
悲しみのうた拝しつつしきしまの道の力を
つとに感じぬ

小柳左門先生のご講義を拝聴して

大君の慈悲の御心古ゆけ続き給ふを尊くをろ
がむ

昭和天皇の因通寺ご訪問のお話を聞きて
亡き父に代りて孤児に御心をかけ給ひける
昭和の帝は

戸田建設(株) 青山直幸

伊藤哲夫先生を八王子駅にお出迎へして

師の君と覚しき人影改札に近づき我らに
会釈し給ふ

久しぶりと気さくに声を掛けたまふ師の君の
笑顔なつかしきかな

声のかすれやや気になれど恙なく過ごせり
と聞けば心安らぐ

国柄を守りゆかむと勇氣もて言論活動を続
け給へり

多忙なる日々にも合宿に出講し給ふ
はげに有難し

八王子セミナーハウスに着きて
木の間より涼しき風の吹き来たり秋の気配

を肌感ぜり
さはやかな木々の緑に囲まれてみ友らと学
ぶ集ひ楽しき

小柳左門先生のご講義の後、
班別研修で貞明皇后の御歌を読む

皇室に流るる慈悲の御心を共に偲びつづ思
ひ語らふ

不治の病を患ひし人らに心寄せ慈しみ給
ふ御心気高し
国民への御恵溢るる御歌読めばしらず涙
の込み上げて来ぬ

第二班

福岡教育大学 教二年 山田快生

初めての合宿なれど先生や同志と学ぶを楽
しみに思ふ

数多ある同志と言の葉交はし合ひ学びを深
めることぞ楽しき

三日間多くの言の葉交はしゆき日の本さら
に学んでゆきたし

会場に向かふ途中に雲間より日射しの見え
て心温まる

紫の色の混じれる木々の葉は日に照らされ
て紅葉するらむ

東京大学 教養 二年 辻本栄介
自らの真の心を見つめんと踏み入りゆか
ん敷島の道

長崎大学 経 三年 地徳奏汰

合宿二日目の朝食後に
和歌を詠まうと考へし折
昨晚の長き眠りの甲斐もなく頭回らず依然

眠たし

眠たさの残りたる身は最近の日々の疲れか
生活の乱れか

部屋中で詠まむとすれど浮かび来ず気分変
へんと外に移りぬ

夏暮れの朝の外気は心地よく蝉の鳴く音も
爽やかに聞こゆ

涼しかる外気に触るれば何となく眠気も和
らぎ頭も回る

涼しさとセミの鳴く音も減りはじめだ
に秋の気配を感ず

長崎大学 工 四年 中村朱璃
大きな単の真中にて獲物待つ動かぬ蜘蛛

の我慢強さよ
初秋の涼しき中に鳴く蝉の夏蝉に負けぬ
力強さよ

「天皇様がないてござった」を読みし折
御右手を子にふれまして御声賜ふ慈悲の
御心深きを思ふ

中村学園大学 栄養科学 四年 田中優妃

誕生日に
いつまでもこの幸せが続けよと祈りて今年
もロウソクを消す

東北大学 大学院 馬場崎 岳
草むらの茂みの中を跳ぶバツタ傷つけぬや
う恐れつつ捕る

東京大学生産技術研究所客員教授 伊藤哲朗
老い若き共に集ひて御講義を受けつ語りつ
共に過ごせり

我が国の歴史学びて国のため尽くすは何か
共に語れり

第三班

アサヒ飲料(株) 澤部和道
合宿には何があつても参加せし父の姿の見
えぬは寂しき

元富士通(株) 古賀 智
秋雨はけふはなふりそ各地より友つどひ来
る合宿あれば

合宿に加はらむとて雨の中野猿峠に登り来
にけり

秋雨に衣はぬれて身も冷えぬされども魂の
火は消えざらむ

若きらの学ぶ姿をめぐればか神は秋雨やめ
させ給ふ

日本青年協議会 別府正智

小柳左門先生の講義を拜聴して
大君の御身の重きを歌はれし^{きんぎょ}後の宮のし
らべかなしき

大君の大御心にこたふべく民のまことを興
しゆくべし

国文研班

元さいたま市役所 井原 稔
国文研一日研修に参加して

頭ではあらで心の底ひから出づる言葉を大
事にせよと(伊藤哲夫先生)
慈悲深き御製と御歌^{みかた}仰ぎては御目に涙浮
かべられつつ(小柳左門先生)

あらためて資料手に取りしみじみと師のみ
言葉を辿る翌朝

宇野友章
はるばると八王子なる会場に案内確かめや
うやく至りぬ

会場に着きて辺りを見渡せば知り顔ありて
微笑みかはす

講演のあとに集ひて我と人の意見交はしつ
学びを深む^む

山稜の学び舎^む囲む樹のなかに記念樹あまた
植ゑられてをり

日程の終はりて坂を下るとき次も来たしと
思ひの浮かぶ

講義 伊佐ホームズ(株) 小柳雄平

国民の悲しみにひたと御心を寄せ給ひこし
皇室たふとし

国土地理院 高木 悠
久々に先輩と話せば輪読を再開せんとと思
ひ強まる

野々村悦子
伊藤哲夫先生の講話に学ぶ本当の令和の御
世の国家創生

本部事務局・フリー

若築建設株式会社 池松伸典
学び舎に寝食ともにし語り合ふこのひと時
の尊かりけり

とりどりの草木も生ひてなごまする八王子
の里心地よきかな

(株) アイセルネットワークス 最知浩一
閉会式にて

人数は少なかれども合宿の営みかなふはう
れしかりけり

コロナ禍にありても友ら集ひしをありがたく

思ひ国歌うたひし

新門司病院 森田仁士

短歌導入及び名歌鑑賞の講義を終へて
身に余る役と知れども若きらに語りゆきな
む歌詠む意義を

先輩のかしこき歌を若きらに伝ふることぞ
吾のつとめなり

足断たる悲しみ超えて詠みたまふ貴き歌は
届かざらめや

言の葉の高きしらは若きらに届きたるら
し感想うれし

先輩の重ね給へるみ教へに守られ無事に勤
めはたせる

み病のはや癒えまして家に戻り執筆すすむ
をただに祈らむ

(一社) 日本港運協会 久米秀俊

伊藤哲夫先生のお話をお聴きして

「心ことば」を学べとの大人のお言葉を心
にしかと刻まむと思ふ

「国」のことあへて触れざる憲法は我が国
のみとのご指摘するとき

○ ロシアより攻撃受けても通信や電力保つと

ふウクライナはも

ロシアからの激しき侵攻にこらへ来しゆゑ
んを知れるこちするかも

国としての備へをしかと持ちたりしウクラ
イナのこと学ばんと思ふ

元(株) アルバック 北濱道
森田仁士先生の短歌導入講義をお聞きして

透き通る御声のままに美しき歌の世界に導
かれけり

歌を詠む営みよろしあらためてさう思ひけ
りお話し聞きて

○ 調ぶれば調ぶるほどに大いなる大人の心に
引き込まれけり(西郷南洲を)

ヤフー(株) 高橋俊太郎

最終日の昼食にて
テラスにてお昼のカレーを食べながら夏の終
りの蝉の音を聞く

国民文化研究会理事長 小柳志乃夫
伊藤哲夫先生にご出講いただき

講師の責め全うせんと感染にみ心配りて過
ごしませしとふ

今日の日に寄せたまひける御心のあつきを

思へばかしこかりけり

危ふかるみ国の様を次々に説きたまひけり
深き憂ひに

み国おもふ一つ心に戦ひを続けきませし
言葉鋭し

師の君に頭言葉に過ぎずとて正されしとほ
き思ひ出語らず

参加者の問ひに丁寧に答へたまふ師のお姿
をたふとしと見し

原看護専門学校校長 小柳左門
ピーヨピーヨと高鳴く鳥の声のして八王子の
杜に朝は明けゆく

窓明けて涼しき風の心地よく緑も深きここ
の森辺は

窓の辺に耳をすませばさまざまの鳥の織り
なす声ぞ楽しき

チーヨチヨめづらかに鳴く声にまちりクッ
クとひびくきつつききの声

朝明けて雨にぬれたる草むらに声もしづか
にすだく虫の音

木も草も鳥また虫ももろもろの命生きゆく
北野の森は

元(株) 講談社 磯貝保博

小柳左門先生の御講義を拝聴して

国民の幸多かれと祈らるる御製の調べ高く
語れり

幾たびか御声つまらせ詠み進む御姿見つつ
心打たれり

これからも御製字びて国民の心高める努め
続けむ

元(株) IHI 内海勝彦

武澤陽介氏の所感発表「作品と心」を聴きて
戦ひに征く直前に美しき曲を作りしラヴェ
ルなりとふ

捕虜となることを拒みて戦死せるアランの
曲の見事さ語る

生前は名も無く家族も失せにしも詩を残し
ける重吉しのぶ

真剣に生きし人らのまごころが作品となり
て遺ると語れり

静かなる音楽のごと君の声わが胸内に深く
沁みいる

昭和音楽大学名誉教授 國武忠彦
わが国をいかに守るか若きらの熱き議論に
我も加はる

九月三日、合宿教室に参加して

柴田悌輔

浄らかな氣持で集ふ教室に諸先輩の積みし
想ひの迫りく

緑濃き八王子の丘に集ひける若き友らにそ
を傳へたし

山あひに陽の落ち始む夕暮れに響ける蟬の
聲だけを聞く

インフリッジ工業(株) 今村宏明

伊藤哲夫先生の御講義を聴きて
切々と国の自立を説き給ふ大人の御講義に
胸を打たるる

熱心に聞き入る学生らの姿見え我も思は
ず拳握りぬ

若き学生ら次々に立ち質問をする姿見え頼
もしきかな

学内の友らにも是非伝へたきと声を弾ませ
語る学生はも

ひとすちに国の道統伝へ来し我等が合宿
教室は尊かりけり

国民文化研究会顧問 今林賢郁

伊藤哲夫先生の講義
み国いま只事ならず禍事の狙ふがごとくに
次々起りて

「国家なき国民」となり果ておのが身の幸
のみ願はば国危ふしと

禍事のすべてが問ふは国家とふことにぞあ
ると強く宣ふ

緑なす大和国原もろびとの雄心満つる時ぞ
待たるる

寺子屋塾 岩越尊雄

講堂に向ふ道辺に

宮澤の賢治を学ぶ読書会植ゑたるといふマ
グノリアの木

創立の十周年を記念する三笠宮の植ゑたる
松立つ

全体感想発表を聴きて

国のため生きることの大切さ学びたるとい
ふ学生達よし

国思ふこと学びしと切々と語る学生貴きろ
かも

自分より相手を思ふ心こそ大切といふ学生
もをり

元拓殖大学日本文化研究所客員教授 山内健生
伊藤哲夫先生のご講義を聴きて

み国へのみ思ひ深きがいやまして伝はりて
来ぬ今年のご講義

み言葉の端々からもしのばるるみ国憂ふる
深きみころ

言の葉は穏やかなれどみ国への深きみ思ひ

迫り来るなり

「国民の福利」を掲ぐも「国家への務め」なみ
する憲法おそろしと

お仕着せの憲法改むることこそが「戦後レジ
ームからの脱却」と

「自衛隊の憲法明記」があやまてる憲法た
だす道の一步と

自衛隊を憲法に記さば国政の構造変ると
篤く説かるる

戦ひに敗れし疵きずのなほ深きみ国の様相さま
改めて思ふ

合宿地に寄せられたお歌

秋田・由利本荘市 須田清文
合宿に向けて

師や友ゆうけし言葉の有難くよみがへりく
る合宿思へば

師や友に出会ひ過こせし日々あまたしみみ
に思ふ友らの集ひに

新しき出会ひとなりてともに歩む友の生なま
るる集ひとはなれ

集ひたる人らとともにままころを込めてひ
たすら進めこの道

地方会場走り書き // 感想文 //

「仮名遣ひ」は原文のままに掲載してあります。



熊本会場

とても面白く拝聴した

(元施設職員 五嶋和明)

伊藤哲夫先生のような真つ当な論が言論の主流にならな
いことをとても残念に思った。小柳左門先生は初めて出会っ
たときから敬愛の念を抱いた。はつきり言つて好きである。
今の私の皇室を思う心情は、先生の影響が多にある。貞明
皇后さまは働き者で天照大御神さまから受け継がれた絹織物
づくりに励まれた由、蚕のはなしはとても面白く拝聴した。
皇后陛下(雅子さま)も蚕を大切にされ、愛子内親王さまも
楽しく蚕のお世話をされているという。平田裕英さんの現憲
法制定過程のお話で美濃部達吉の関わりを詳しく拝聴した。
美濃部がいかに憲法学者として悩んだかを感じ、現憲法は米
占領下の暫定憲法であるとの想いを戦後もずっともち続けた
のではないかと思う。

憲法は権利ばかりを言ひつゝのり国家なくして国民ありや
自らの目先の利益のみ求めわれら忘れし自立への意志

国民にそそがれる慈しみの心

(竹田医師会病院 福田 誠)

伊藤哲夫先生の御講義は今日の日本の重要課題がとり上
げられ、いづれも、これまでの生活の危機を感じるものであ
った。現憲法の中に「国家」の文字がないことを初めて知り、
日本国の危機の基であることが痛感されて、憲法改正が猶予
ならないと思います。

小柳左門先生の御講義に聖徳太子から現在の皇室まで、国
民にそそがれる慈しみの心が受け継がれていることがよくわ
かりました。今上天皇のおことばにもあり、日本の民として
ありがたく思いました。

熊本の会場での平田裕英氏の発表にも現憲法の違法性や矛
盾が指摘されました。日本を護る為にも憲法改正が具体的に
すすむことを期待します。

伊藤哲夫先生の御講義に

先生のお話聴けばわが国に迫る課題に恐怖を覚ゆ
祖先より受け継ぎきたるわが国を守りゆかなむ国民を協へて

献身的に尽される御心には感動した

(今村武人)

伊藤哲夫先生の講義では、「日本国憲法」がもたらす「個人」
「人権」の毒素が国家の隅々に迄まはつてゐるといふ感想を

持った。憲法に「自衛隊」を一言入れるだけで、その目的は国家存立となり、「国家」といふ一文字が憲法に入ること、現憲法に風穴があくといふ話には目が覚める思ひだった。小柳左門先生は皇室に受け継がれる慈悲の御心として、歴代皇后の病者に対する御心を取り上げられた。中でも貞明皇后のハンセン病患者に対して献身的に尽される御心には感動した。学校現場でも「人権教育」としてハンセン病が取り上げられることが多いが、「頭言葉」で理解させ政府批判をさせることが多い。しかし小柳先生は「心言葉」で聴く者の心に強く語りかけられ病者と共に生きる喜びを示していた。久々に集ひし同志と机並べ学びてゆくも楽しかりけり

国家観なき国民は安倍さんを亡くせし後はいづこへむかふ

憲法改正にも高邁な精神を以て臨みたいものである

(折田豊生)

小柳左門大兄のご講義では篤い敬仰心を通して「皇室に受け継がれる慈悲の御心」に胸を熱くし、平田裕英兄のご講義では憲法改正の実に重たい根本的課題をあらためて突き付けられた思ひである。

敗戦の翌年の正月、昭和天皇は「降り積もる深雪に耐へて色変へぬ松ぞ雄々しき人もかくあれ」との御製を国民にお示しにされた。「堪へ難きを堪へ忍び難きを忍び」と仰せられた内容は、ただ雑草のやうに生き延びるのではなく松のやう

^{よみが}に蕪へることを国民に期待されたのである。

憲法改正にも、単に国家の安寧の最低限を維持するのでなく、高邁な精神を以て臨みたいものである。

久々に友らと集ひて学び合ふその尊さをあらためて思ふかかる世に思ひの丈を寄せ合ひてみ国に尽くさむ教あらねども

日本人として深く感得しなればならない

(株) ライフブラザパートナーズ 河崎由紀夫

伊藤哲夫先生の講義で疑問点二つ。一つは、ロシアによるウクライナ侵攻について、ウクライナの親米化・親ナトー化とロシア系住民に対するネオナチの非道などでロシアは最終的に国境を越えざるを得なかったのではないでしょうか。次に日本の核武装に関する議論で、昭和天皇および上皇陛下、今上天皇の大御心を拝察する必要はないでしょうか。小柳左門先生の講義について、歴代天皇が受け継がれる慈悲の大御心こそ日本国の基であり、国民が等しく理解し、世界に拡げていく覚悟が必要です。「船まもる心のひかりさしそひて海原とほく照らしゆくらむ」「語るなく重きを負ひし君が肩に早春の日差し静かにそそぐ」「心の光」「早春の日差し」とは何かを日本人として深く感得しなればならないと思います。

戦ひに負けたる国のさためかな外国に憲法強ひられたるは神の代ゆ受け継がれたる慈悲仁恵仰ぎまつらむ伝へまつらむ

深く心に染み入りました

(株) ミュキコーポレーション 吉村浩之

東京主会場の伊藤哲夫先生、小柳左門先生の録画講義を視聴したあと、在熊の平田裕英君に美濃部達吉の日本国憲法批判と制定過程について発表して頂きました。コロナ禍での久しぶりの集りとなりました。各講師の方々の含蓄の深い御話に感じ入りました。特に歴代皇后陛下に受け継がれてきた慈悲の伝統は、御歌を通して深く心に染み入りました。初秋の一日を合宿を通して過す事が出来、感謝しております。

平田裕英兄の発表を聞き

我が国の憲法学の空間は未だ米国占領の下もとにあるとふ
淡々と資料を示して語り行く兄の言の葉愁ひに満つる

どうしたら多くの若い方に参加して頂けるか

(平田裕英)

伊藤哲夫先生、小柳左門先生のお話は、あつと言ふ間に終られたと感じる程内容の濃さを感じた。

伊藤先生の御話から、自分が具体的に何をすべきかにつき改めて考へさせられた。自分で定めて行動しなければならぬ。
い。

小柳先生のお話は、毎度心が洗はれるやうで、人間の苦しみ悲しみと美しき心の働きをお伝へ頂き感謝します。

ビデオで全国どこからでも受講可能な状態であることは良い事だと思ひます。新たな技術を活かして、どうしたら多くの若い方が興味を持つて参加して頂けるのか、その前提として知って貰へるのか、課題だと感じてゐます。

研修の成果を周りの知友に語り伝えて行きたい

(白濱 裕)

久々に熊本国文研の同志と研鑽の機会を得て、有意義な内容だった。

伊藤哲夫先生の御講義で、安倍元総理の主張の根幹には「国家復権」への願いがあつたと述べられたが、防衛や教育の今日の混乱の基に国家観の喪失があることを改めて痛感した。台湾有事が迫る中、旧統一教会問題や国葬問題で政府も右往左往している状況で寒心に堪えない。

小柳左門さんの講義では、光明皇后をはじめ歴代の皇后陛下の、特にハンセン病の患者に対する慈しみの御歌に、深く心を動かされた。

平田裕英兄の発表は、新憲法制定過程における美濃部博士の信念の指摘の軌跡を良く調べてあり、今日の憲法改正論議は、ここに立ち戻つて議論すべきと思つた。今日の研修の成果を周りの知友に語り伝えて行きたい。

貴重な機会を頂きありがとうございます

(司法書士 井上慶一)

久しぶりに合宿に参加させていただきました。ふだん日本国憲法について考える機会もなかったので、大変勉強になりました。現行憲法も制定されて70年以上たつので、現代社会の状況にも対応できるような内容に改正した方がいいと思います。その際に、再度大日本帝国憲法を見直し、良いところは引き継いでいった方がいいと感じました。今日の機会を通じて、ふだんから憲法について少しずつ意識しているところとあらためて思いました。今日は貴重な機会を頂き誠にありがとうございました。

関西会場

国家観を持つことで日本の重大課題の本質が見える

(元会社員 神戸市 天本和馬)

ウクライナでの戦争についてのニュース報道で疑問に思っていたことはウクライナ、ロシア両国ともに国家意思として戦争を戦っているにも関わらずその点に焦点を当てた報道がなされていないことである。伊藤哲夫先生が講義で言われた戦後教育の間に刷り込まれた国家の否定、または忌避が原因

と見る。内外の事象を見る場合、国家としての日本はどうあるべきか、諸外国は国家として如何に対処しようとしているのかを前提に考えなければならぬと思う。安倍元総理の事件でも専ら統一教会に焦点が当てられているがそれは些末な事柄であり、この事件が日本国家にどのような影響を与えたのか。起きてしまった事件に対して国家として如何に後始末を付けるのか。伊藤先生は国家観を持つことで日本の重大課題の本質が見えると説かれたが、先生の御講義でモヤモヤしていたものが晴れた気がする。

小柳左門先生の御講義では皇室の伝統である慈悲の御心について拝聴した。とりわけハンセン病患者の上を思われる貞明皇后の御歌が光明皇后の悲田院、施薬院の御心に繋がり、次の香淳皇后に、更に上皇后様にも引き継がれ共にハンセン病療養所を訪れられ御歌を残されている。皇后様方は皇室外から皇室に嫁がれたわけであるが、嫁がれた後に歴代の皇后様方に範を求められ心の修業をされたのだと思う。その時の天皇様が背負われている重い責任を間近に見ておられ少しでもその支えになろうとされたからではなかったか。香淳皇后様や上皇后様の御歌にその様子がうかがい知れる。

小柳左門先生の御講義で紹介された

皇后様方の御歌を拝して

皇室に嫁がれしより重き荷を背負ふにも似し御跡しのぼゆ
幸少なき老人子供隔てなく慰め給ふお姿浮かびく

憲法に国家を書き込むことが

本質的なアプローチである

(布瀬雅義)

伊藤哲夫先生、小柳左門先生のご講義で感じる所は多々あったが、一つだけあげるとすれば、憲法に自衛隊に関する条項を入れるということは、憲法に国家を入れる、ということ、というご指摘であった。確かに、国家の基本法たる憲法に国家が書かれていない、ということが、現代日本の迷妄の根本であると感じた。

国旗国歌法で、日の丸君が代がすっかり国旗国歌と定められてから、教育現場での混乱が相当に収まった。法律でしっかり定めるといふことは、国民の意思を明確に示すということなので、現在の国家不在の混乱をただす為にも、憲法に国家を書き込む、ということが、本質的なアプローチであると思つた。

関西信和会拡大例会にて

をちこちの遠き土地より集ひ来てともに語らふ多にし貴し

国家と自分との関係について、二つのことを感じた

(東洋紡織 庭本秀一郎)

一つ目は、自身の生は国家に支へられて成り立つてあるといふ基本の確認と、それを周囲と共有したいといふ思ひだった。自身は、国家と自分の関係性について、日常の人とのか

かほりの中で、オープンに語らふ場を持つといふことから始められるのではないかと思つた。伊藤哲夫先生のお話の中で、その切り口となるやうな問ひをいただいた。「主権者とは何か」「政治の役割とは何か」など。

二つ目は、その語らひにおいては、共に先人の遺徳を偲ぶといふ心持で臨みたいと思へたことであつた。そしてそれを、危機感をもってシリアスに語るだけではなく、楽しい語らひにすることが大切だといふことを、祖父岸信介氏を回想する安倍晋三元首相の話から気づかされた。

先人の思ひを偲ぶ語らひを暮らしの中に織り込みゆかむ

かけがえのない偉大な政治家、

真の国土を失つてしまった

(絹田洋一)

伊藤哲夫先生は若い頃、小田村寅二郎先生から「あなたの言葉は頭ことばだ。心から出たことばではない。そのままいくら勉強しても人生の真実は分からない。真実には到達しない」と指摘され、そのことを考え続けてきたと言われたのが印象的だった。亡くなった安倍元総理の言葉にはいつも気持ちがかもつていた。心に響くものがあつた。他の多くの政治家にはなかつたものだ。それは「心ことば」だったのだと今にして腑に落ちる。元総理の言葉には、いかなる困難を排しても「日本を立て直す」という強い志、覚悟、こうした万感

の思いも込められていたのだと思う。元総理の死の衝撃と無念の思いは未だに消えないが、伊藤先生のお話を伺い、かけがえのない偉大な政治家、真の国士を失ってしまったということ改めて痛感した。

いかほどの煩ひなりしか病得て総理の務めを退かるるほどとは

日本を取り戻さむとふ覚悟もてふたび総理となられし大人は

改憲の道のり険し大人ならで成し遂げがたしと思ひをりしに
ひとたびは病に倒れ今はまた凶弾に斃れし無念やいかに

上皇后様の御歌に魅力を感じた

〔園田美浩〕

国家を考えずに個人の幸福を考える。何故か？やはり戦後教育の影響で、個人の権利ばかりを重視し義務を考えないからそうなるのだろう。その基本となっている憲法について、アメリカ合衆国憲法前文と日本国憲法前文の比較に、なるほどと感した。

安倍晋三首相とおじいさんである岸信介氏とのつながりは知らなかった。安倍晋三氏を教育したのが岸信介氏であり、安保闘争の時信念を持って総理の座を投げ出しても世論と闘ったのは立派と思う。岸信介氏の再評価が必要と感した。

「皇室に受け継がれる慈悲の御心」では上皇后様の御歌に

魅力を感じると共に上手だなあとと思う。私もあんな風に詠めたいなと思う。

昨日まで扇風機をつけ寝てみたが虫の音色に秋を感じる

特に印象に残ったのは、頭言葉と心言葉の話でした

（株）利他創造 石部大史

講義「今日日本人に問われている歴史的課題」で特に印象に残ったのは、頭言葉と心言葉の話でした。安倍元総理が国内外で多くの支持を得たのはまさに「心言葉」で自分のビジョンを語り、現実を直視した上で多くの人の共感を得られるような政策を実行してきたからという話は大きく納得がいきました。

講義「皇室に受け継がれる慈悲の御心」では、短歌で特に印象に残ったのは、香淳皇后の歌です。幼子やハンセン病患者などへの思いもさることながら、折に触れて「慰めまつる言の葉もなし」「我が言の葉もつきはてにけり」といった、ご自身の悩みまで詠まれることもまた、肉親の情、心言葉からの慈悲の気持ち広がく伝わる背景にあるのではと感しました。

安倍元総理の銃撃現場を訪れて

宰相の御霊に捧ぐ向日葵を愛慕の気持ち届けと願ひ
花捧ぐる人に並びて祈りたり次の国士が生まれむことを

日本人に生まれて良かった

(主婦 板西雅代)

「今日日本人に問われている歴史的課題」

この講義を受け、国家観を持つことの大切さがよくわかりました。学生時代から、何か違和感があり、おかしいと思ってきたことが何故なのか、時代とともに、また自身の年齢を重ねるごとに色々な事がわかってきました。今回のこの講義でも、憲法のおかしさを一部ではありますが、指摘、解説してくださり、納得がいきました。わが国の歴史、憲法の成り立ち、他国との違いなどを明らかにされることもなく、考えさせられることもない学校教育や社会風潮が、どんどん酷くなっているように思います。

国家とはどういうものか、国民として何をしなければならぬのか、を国民に問いかねなければならぬ、私たち一人一人が考えなければならぬと痛感しました。

「皇室に受け継がれる慈悲の御心」

この講義で挙げられていた皇室の方々の御歌を解説されるの聞き、まさに、慈悲の御心を感じました。講師の小柳左門先生は、講義をしながらも感動されている様子が見てとれ、その様子でさらに、こちらの感動が増したように思います。そういう背景で、このような御歌を詠まれていたのか、という驚きと有難い御心に、私たち日本人が現在までどのような国柄に生きてきたのかが感じられ、日本人に生まれて良かった、

た、と思いました。

具体的なこのような御歌も、ほとんど知らず、自分から求めないと知ることもないという現代が、とても残念にも思いました。国民皆が、このような皇室に受け継がれる慈悲の御心を知れば、日本の社会がより良いものになっていくように思います。

皇室に受け継がれこし御心に触れる幸せ分かち合ひたし

全てが慈悲の心に満ちていると感じました

(京都女子大学 板西清香)

「今日日本人に問われている歴史的課題」

今まで、日本国憲法はおかしいという話をよく耳にする機会がありました。具体的などこかというところがおかしいのかということがよく分かっています。今回の講演会で、具体的にどこがおかしいのかを知り、とても納得しました。憲法であるにも関わらず、日本人がどのように行動すべきか書かれていないというのはおかしいと思います。国民の一人一人の意識を変えることが重要であると思いました。

「皇室に受け継がれる慈悲の御心」

皇室の方々は、どんな状況であつても他の人を最優先に考えているということがわかりました。様々な歌を詠まれています。その全てが慈悲の心に満ちていると感じました。皇室の方々がそのような御心だからこそ、日本は豊かなのでは

ないかと思いました。

いつの日も大御宝の幸福を語り継がれる慈悲の御心

長崎会場

〃頭言葉〃 〃心言葉〃 と 〃慈悲の御心〃

(元大村郵便局 橋本公明)

伊藤哲夫先生の講義の中で、〃頭言葉〃 〃心言葉〃の言葉が心に残りました。「歴史観」「国家観」を考へる上でこの言葉がとても大切と思ひました。

小柳左門先生の講義で、歴代天皇に伝はっている 〃慈悲の御心〃が現代にも脈々と伝はっていることが、歴代天皇の御歌を通じて分かり、有り難く思ひました。

小柳左門先生の講義を聞き

歴代の御歌を通じ慈しむ心ありありと伝はりて来ぬ

日本人として生を受けた有り難さ

(長崎市立横尾小学校 奥村市郎)

合掌、本日は素晴らしい学習会に御誘ひ頂き、誠に有難うございました。伊藤哲夫先生の昔と変はらない、熱い熱い赤心を抱かれて、戦後の成り立ちから、このやうな遊民となり

果てた日本国民の精神的欠落点をこ指摘頂きました。やはり、今、日本が置かれてゐる状況を直観し、それを認め、変革を決断する勇氣が大切と思ひました。

また、小柳左門先生の御講話で、日本人として生を受けた有り難さ、御皇室の本当に深い御製、御歌を拝し、常日頃、子供達にも語つてゐる、天皇は無私の親心を持たれてゐる事、その幸せさを痛感いたしました。有難うございました。

御言葉を拝しまつりてつくづくと生きていけるが有り難きかな

(元小学校教員 枝川 緑)

歴代の天皇様の御心は民を思ひて過こされる日々
あのうたもこのおうたにも愛あふれ心打たれて涙こぼるる

皇后陛下様達の素晴らしいお心

(主婦 梅野幸代)

「今、日本に問われている歴史的課題」の伊藤哲夫先生の熱い思いのお話しをお聞きして、本当に今皆んなで、憲法改正に頑張らなければと思ひました。国家としてのあり方、誇りある日本に、アメリカから今の憲法を押しつけられ、原子爆弾を落とされたのに、アメリカを頼っている日本、日本国として、強い誇りある国にして欲しいと願います。

「皇室に受け継がれる慈悲の御心」小柳左門先生のお話しをお聞きして、日本人として生を受けた事に有り難く思いま

した。神武天皇、明治天皇、大正天皇、昭和天皇、お参りさせて頂きました事、なつかしく思い出しました。皇后陛下様の素晴らしいお心にあらためて嬉しく思いました。

小柳左門先生の講義をお聞きして

皇室の慈悲心の御心受け継がれ日本に生まれし我が身尊し
歴代の皇后陛下の御歌受け格調高く胸熱くなる

日本に御皇室を頂いている幸せをかみしめました。

(元小学校校長 山川洋一)

我が家での国文研修会に八名おいで頂きました。座長の橋本公明様には早くから、一人でも多くの人に話を聞いてもらいたいと、熱心に参加をすすめて頂きました。

伊藤哲夫先生の話の中で、憲法への自衛隊明記の必要性は、憲法に国家が入ることであるととの論に感銘致しました。

小柳左門先生の話では、御皇室の慈悲の心を歴代天皇、皇后陛下のしきしまの道を紹介されながらお話し下さいました。歴代皇后陛下の御歌には特に感動が深く、涙が、とめどなく流れ、日本に御皇室を頂いている幸せをかみしめました。

ひたすらに和歌のつとひを開きたる友の姿の尊かりけり
鎮西のこの地に光る言の葉のひびきわたれと思ふこのころ

福岡会場(太子会)

頭ことばでなく心ことばで物事を考える

(武田真理子)

伊藤哲夫先生と小柳左門先生のお話は、根底に流れる問題意識はかなり共通する部分があると思いました。つまり今を生きる私たち日本人に欠落している事、それは国家観であり、死生観であり、危機感である、と。疫病や戦争や災害等多くの難問を抱えた世界は聖徳太子の時代に似た所がある様に思えます。戦後は国家のことを考えたり話したりすることもタブーだったのが、最近のキナクさい世界情勢のこともあり、考えざるを得ない状況になって、今日の講義で改めて正しい問題意識に導いていただきました。頭ことばでなく心ことばで物事を考えるには一朝一夕にはできませんが、そういう観点を持たせて頂き有難うございました。

因通寺で昭和天皇のおことばに心ことばを教へられけり

日本人であることに感謝をしつつ

日々を大切にして行きたい

(チェーントップ 正田英樹)

伊藤哲夫先生のお話をお聞きし、国民は福利を享受するの

みで国家に対して責任を負わなくて良いのか、やはり憲法自体のあり方に問題を感じました。有事が確実に迫る中、日本国に対して、私自身が何をできるのか。経営者として社員の生活と成長を守りながら考えて参ります。

小柳左門先生のお話は、天皇・皇后にいかにも国民に心を寄せて頂いたか、御歌を通し、心にしみわたりました。自然と流れる涙の中に、国の中心とはかくあるものかと感じ入りました。日本人であることに感謝をしつつ日々を大切にして行きたいと思います。

秋晴れの心地よき日に国想ふ大和の民とて何をなせるか

求めらるる国家観の見直しを今ぞ掲げん創生日本

御心みこころにふるるにつけてあらはるる勤勞奉仕の御会釈の御姿

御歌聴き自づと涙湧き出でてここにぞ国の体を観るかな

実り多い日帰り合宿であつた

(日章工業(株) 藤新成信)

日帰りの地方合宿が、本合宿のビデオ配信によつて実現できた事は、実に有難く意義あることであつたと思ひます。日頃地方で学び合ふ人がご当地で合宿に参加できたことは、今後の国文研合宿のスタイルとして深めて行くべきと思ひます。

伊藤哲夫先生の、現在の日本人の直面する歴史的課題の明確なご提示と、小柳左門先生の、それにお応へすべき国文研としての歴史の真実の姿、皇室をいただく日本人の最も中心

にあるものが体感された、伊藤先生の言はれた「心言葉」が示された素晴らしいご講義であつたと思ひます。安倍元総理の国葬儀の直後の開催となり、実にリアルにタイムリーに時事問題を語り合ふ場となり、実り多い日帰り合宿であつたと思ひます。

コロナ下にありても友ら集ひ来て学ぶひと時楽しくもあるか
日の本の心は皇室に伝はる慈悲のみ心と知る

あらためてこの国に生まれてよかつたと思ひました

(元木哲三)

伊藤哲夫先生のご講演について、何より日本国憲法には「国家」が存在しないという指摘は驚きでした。常々、憲法改正が必要だと感じてきましたが、安倍元総理亡き後、まさに「待ったなし」の状況にあることを痛感しました。まずは自分自身が学び、そして発信できることはためらいなく主張できるように努めようと、心をあらたにすることができました。

小柳左門先生のご講演の後、涙を止めるのに必死でした。歴代皇后様の御慈悲の心について解説して下さつたことに深く感激いたしました。

あらためてこの国に生まれてよかつたと思ひましたし、天皇陛下をはじめ、皇室の皆様のお心に少しでも近づけるよう自らを磨いていかなければと考えるきっかけとなりました。凶弾に斃れし君のみこころのかけらぞ燃ゆる私の胸にも

伊藤哲夫先生のご主張に大変共感した

(元マツダ(株) 久々宮 章)

憲法改正論議で「自衛隊の明記」が取り上げられてゐるが、前文や戦争放棄等の文言変更あるいは削除は行なはれないといふ。伊藤哲夫先生は全体を変へることは到底無理であり、安倍元総理は政治家としての現実的な一歩となる自衛隊の明記を優先すると決断された。自衛隊明記は「国家」が憲法に明記されるといふことであり、意義は大きいと強調された。近い将来台湾有事が想定される中、この改正は急ぐべきと痛感する。又、先生は少子化問題は、日本にとつて重要課題であり、若い人が減り人口が大きく減少すれば、国家の衰退を招くことになり、これに対する国民の危機感が足りないと訴へられたと思ふ。これらは全て「国家」としての今の日本のあり様が問はれてゐるとする先生のご主張に大変共感した。

伊藤哲夫先生の講義を拝聴して

淡々と事実を交じへ語ります師の言の葉に耳傾けり

○ をちこちに勤いそむ民の上うへ思ひ詠み給ひたる御歌かしこし

伊藤哲夫先生の御講義のビデオを見て

(華泉書道会 坂本和代)

伊藤哲夫先生の御講義は何度かお聞きしましたが、今回は

人ごとではないと緊張して聞きました。日本国憲法前文に「国家自立」が謳われてない？当然、当たり前前にも思つてました。安倍元総理の念願、正しい憲法改正を確実にしないと日本が無くなりそうで心配です。また、「頭言葉」「心言葉」が胸に刺さりました。「こころ」の入つてない書は生きません。日本人の根っこにある「思いやり」も「こころ」だと思ひます。永く受け継がれるよう「書」を通して教えていきたい。これが今の私に出来ることです。

少子化に危機への備へ無に近く「日本くが無くなる」と気だけ焦れり

福岡会場(水天宮)

できることから努めていきたい

(みどりヶ丘保育園 西山八郎)

学生の頃から共に学んできた先輩や友人と久しぶりに再会を果たし、現下の重要な課題について学び合へたことがうれしかった。伊藤哲夫先生の講義では、我が国の歴史的課題について具体的資料や事件を通して丁寧にご説明いただき、問題の本質がより明確に洗ひ出されたと思ふ。また、小柳左門先生の講義では、短歌を通して皇室に連綿と受け継がれてきた慈しみの心をお話しいただき、国民の一人としてその恩

沢に浴していることがありがたく感じられた。学生の頃と現在を比較すると社会の混迷は、国際情勢の急激な変化とも相まつて一層深刻になつてゐると感じられる。これを打開していくことは生半可なことではないが、問題の本質を見失はないやうにできることから努めていきたい。

合宿を振り返りて

若き日に共にはげみて学びこし友らと再び会ひてうれしき先輩の声をしきばおのづから力わきくるおもひするなり

(志賀建一郎先輩)

いにしへゆうけつがれこししきしまのゆたけきこころを学びゆかなむ

政治家、ブレインと在野の意思疎通と信頼

(福岡県糟屋郡篠栗町 堀田眞澄)

伊藤哲夫先生の御講義は、嘗ての占領政策を積極的に受け入れ、アメリカが与へる平和を半世紀以上に亘り享受してきたため、国際情勢の潮目の変化に気が付かない、あるひは目を閉じたままの国情に警鐘を鳴らされ、空論ではなく着実に正道に向かふ政策の実現の為に「小鮮を煮る如く」進めるべきことも諭された。時の政府に有能なブレインとなる人材を育成することが必要なことであると思ひます。そして政府の中核で政策を策定、実行する政治家及びそのブレインと在野で国民教化に当たる人々の意思疎通と信頼を構築すること

が重要だと気付きました。

久々に会ひたる人はそれぞれの思ひを語り吾が益となる

慈悲の御心を私達が今直接感じる事ができる瞬間

(横畑雄基)

伊藤哲夫先生のお話では、「国家観」の中で、主権者の覚悟というお言葉が印象に残った。「平和ボケ」「戦後民主主義教育の弊害」は、あげればキリがない。自分がしつかりと歴史を見つめ直し、子供達に伝える事で日本人としての自覚を更に強く持つてもらえるよう働きかけていきたい。

小柳左門先生のお話にあつた「皇室の慈悲の御心」については、もっとしつかりお聞きしたい。大災害等で現地に巡幸される天皇陛下が人々の声に耳を傾けておられる姿は、連綿と続く皇室の慈悲の御心を私達が今直接感じる事ができる瞬間だと思ふ。因通寺の調寛雅さんの手記は、改めてじっくり見直してみたいし、住まいの近くであるので、一度お参りにも行ってみたい。

日の本に生まれ育ちて有り難し慈悲の大御心の君いただきて

あたま言葉とこころ言葉

(中村学園大学 石原 忍)

本日の研修を受けて強く印象に残った言葉は、伊藤哲夫先

生の述べられた、あたま言葉とこころ言葉というものです。自身様々な勉強会に身を置き、知識は増えていきますが、それがどこまで自分の血肉と化しているか、こころ言葉になっているか甚だ心許無いものがあります。本日あらためて内省の心巡らし躬行実践、自らの行動が自らの心の反映となるべく研鑽を重ねて行きたいと思ひます。

外国の嵐再び迫り来て断じて護らむ御国の誇りを

本当の知識、人生の指標

(新門司病院 森田仁士)

伊藤哲夫先生・小柳左門先生のお話は分かりやすく学生さん若い方々にも充分に感じ取って頂けたと思つた。

お二人のご講義をお聴きした後の感想。講師の「人格・品性・教養といふフィルターを通して発せられる言葉」が本当の知識となり、人生の指標を考へる知恵となるのだと再確認した。聴講の室など設備は良好で、生の講義を受講してゐるかの感じであつた。本部を始め収録・編集さらにこの福岡の会場準備に当たられた方々に感謝します。

配信による聴講に関して感想一点。サテライトに集まつて顔を合はせて聴く聴講と、自宅で一人での聴講では、気持ちの集中が違つた。集まつて顔を合はせることが大切と感じた。

変はらざる先輩のみ聲にたちまちに学生の日に戻る心地す
若き日に賜はる縁今もなほ我を励ます凜と生きよと

解決の糸口

(元中学校教師 西原正博)

伊藤哲夫先生は、国家が存続していく為には、国民一人一人に「国家自立への意志」が必要であると語られた。又、安倍元総理の非業の死を悔やまれつつ、その志「日本を取り戻す」具体的な政策としてまづ、「憲法改正」を行ひ「国家存立のために自衛隊を保持する」といふ文言を入れる事を強調された。国防の基本は、「孫子」にある様に「その攻めざるを恃むことなく、吾の攻むべからざるところあるを恃むなり」で「味方の側に敵が来攻できない十分な備へ」があるかの検討が急務と思ふ。ロシアによるウクライナ侵略・台湾危機・少子化問題など重大な課題も、我々国民が「国家自立への意思」の根幹となる我が国の歴史や文化に誇りを持ち、日本人としての自覚を持つ事が解決の糸口になると思ひました。

小柳左門先生の御講義をお聞きして

おほきみ陛下と共に歩みし皇后様の慈悲のみこころ尊く思はゆ
災ひを受けし国民思はるゝ皇后様のみこころ深し

内容の充実したものでした

(藤 寛明)

小柳左門先生のご講義をお聴きして、御歌に込められた歴代の天皇方の民を思はれる御心がしみじみと伝はつてきて、

日本に生まれたことの仕合せを今更ながら感じる事ができました。最後に紹介された昭和天皇の「みほとけの教へ守りてすくすくと生ひ育つべき子らにさちあれ」の御製は、心に真つ直ぐすうつと入ってきました。後に続く子供達への私達の願ひも、このみ歌の中に尽くされてゐると思ひます。

この半日の合宿で志賀建一郎さんにも久々にお会ひでき、いつもの信念のこもる強い発言を伺ふことができました。元気を貰った気分です。

今回は、二つのご講義を聴き最後に参加者が近況を述べ合ふ短時間の合宿でしたが、内容の充実したものでした。

鹿兒島会場

感想文

伊藤哲夫先生のお話をお聞きして感じたことは次の通り。

(月野木勝彦)

- 一、国家の認識の重要性
- 二、やはり教育が人を育てるということ。
- 三、自衛隊明記の憲法にすること。

小柳左門先生のお話をお聞きして感じたことは次の通り。

- 一、聖徳太子の慈悲の御心が継がれて皇室はあるのだなあ。
- 二、皇后の御歌に、疫病、天災に心をくだかれるを拝した。

三、文化を伝える義務の大切さ。

いつくしみのみこころをつぎつぎきたる天皇はます日の本に

すめらみこと

「慈悲のこころ」「慈しみのこころ」

(京田清人)

伊藤哲夫先生のご講義でとりあげられた五つの重大課題、とりわけ経済安全保障への取組については、通信、電気、水道、物流他に対し、無意識のうちに起こりうる危機への対処が必要であると感じた。米ペンス元副大統領の「中国は窃盗国家である」とのコメントは、強い警鐘であると思う。また、安倍元総理の「日本を取り戻す」に込められた万感の思いや憲法条文に「国家」「自衛隊」を明記する必要性など示唆に富んだお話を頂けた。小柳左門先生のご講義は、ご紹介される御歌ごとに、その時代背景や、行為、エピソードを解説頂き、私なりにその思いに触れることができた。「慈悲のこころ」「慈しみのこころ」というお言葉を繰り返し使われたが、聖徳太子以降、現在に至るまで貫かれたこのお姿は宝であると思う。

この美しい日本について伝えていこうと思います

(川井泰彦)

「日本国憲法に、国家という言葉がない」との伊藤哲夫先生のご指摘にハツとさせられました。憲法が法の上に存在し国

政の全ての基本となっていることを考えれば、全面的な改正を行う必要性を強く思いました。そうしなければ国家意識の欠落した国民が益々増えることが大いに予想されます。

私が健全な国家観を持つに至ったのは、乃木將軍を尊敬する父と、故小柳陽太郎先生をはじめとする国文研につながる方々の教えのおかげです。今回、小柳左門先生のご講義によって、皇室に受け継がれる慈悲の御心に接することが出来、心から有難く思うとともに、嬉しくなりました。冒頭「若い者に良いものを伝える義務がある」と仰った通り、子や孫達に、この美しい日本について伝えていこうと思えます。

ライ病患者に寄り添われる皇后様の御姿に感動した

(野間口俊行)

伊藤哲夫先生については、今年四月鹿児島市で日本李登輝友の会など主催の講演会でチェンバレンの宥和政策の話を読まれ、当時は「戦争などできない」西側世論で、今日の日本同様相手が侵略の意思を持つのに「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼する」のみで、国防を蔑ろにしてよいのかという話が印象に残った。今回の講義も趣旨は同じと思う。

小柳左門先生の講義では、歴代の皇后さまが、これほどライ病の患者に寄り添っておられた事実を初めて知り、大変驚き感動した。また、天皇の「語るなき」日常の厳しい生活のお姿に聖徳太子の「国家の事業を煩わしとなす。ただ大悲や

むことなく、志益物を存す」の生き方が脈々と受け継がれていることを改めて知った。



熊本会場



関西会場



長崎会場



福岡会場（水天宮）



鹿児島会場

あとがき

新年を迎へ、寒さも一層厳しくなつて参りました。

皆様にはその後如何お過しでせうか。

東京都八王子市「大学生セミナーハウス」主会場での「合宿教室」および各地方会場での録画に基づく「集合研修」から四、二カ月経ちました。この度やうやくこの「感想文集」を、皆様のお手元にお届けできる運びとなりました。

この文集は、「合宿教室」、「集合研修」後、参加者に走り書きしていただいた感想文と、合宿中に創作した短歌を合はせて収録したものです。

編集作業は、皆さんの感想文を添削・編集する作業から始まりました。参加者お一人お一人のお心こもる文章と歌を丹念に読み返し、文字を正確にたどる作業は、皆さんの端々しい心の動きに触れる喜びを感じることができ、貴重なひと時でした。

本感想文集の編集に際しましては、以下の方針で作業に当たりました。

一 「感想文」

執筆者の原文を尊重し、お心の内が最もよく表れてゐる箇所を摘要し、表題を付けました。文意が不明瞭な場合は、執筆者の気持ち想像しながら、原文の趣が損なはれないやう加筆しました。「仮名遣ひ」については、原文を尊重し、現代仮名遣ひ、歴史的仮名遣ひどちらかに統一してゐます。漢字および文法上の誤りは訂正してをります。

二 「短歌」

主会場学生の創作短歌は、全体批評で手直しされたものを「短歌詠草」に収めました。主会場、地方会場の感想文執筆時の創作短歌も併せて載せてをります。文字表記は、すべて歴史的仮名遣ひにそろへ、文法上の誤りは、訂正してをります。

主会場での講義の録画と写真撮影は（株）アイセルネットワークの最知浩一さんにお世話になりました。

本感想文集を読み進むにつれて、当時の感動が甦ってくることでせう。読後は、班でお世話になつた方へ一筆お便りを差し上げていただければ幸いです。（北濱 道記）

第六十七回「合宿教室」(主会場・地方会場) 感想文集

非売品

令和五年一月十日発行

編集兼発行者

公益社団法人 国民文化研究会

理事長 小柳 志乃夫

編集 北濱 道

東京都渋谷区東一―十三―一―四〇二号

〒一五〇―〇〇一―一

電話 〇三―五四六八―六二三〇

FAX 〇三―五四六八―一四七〇